

信 州 大 学

総合健康安全センター一年報

令和3年度

信州大学総合健康安全センター

目次

・ はじめに	1
・ 総合健康安全センター組織	2
・ 令和3年度総合健康安全センター年間事業・業務等実施状況	3
I 健康管理	
1. 健康診断	
1) 健康診断の実施	4
2) 健康診断事後措置・保健指導	6
2. 保健室における感染症対策	6
3. メンタルヘルス	
1) 休学・不登校等の学生対応，休職教職員対応	6
2) メンタルヘルス対策	9
4. 過重労働による健康障害防止対策	11
5. 診療・応急措置	11
6. 感染症対策	11
7. 健康教育	
1) 健康科学・理論と実践	12
2) メンタルヘルスに関する教育	14
3) 一次救命講習	16
II 安全衛生	
1. 総括管理	
1) 安全衛生に関する方針・目標・計画の策定と評価	16
2) 学内の実態調査と情報の更新	17
3) 安全衛生管理体制の構築	17
4) 安全衛生委員会及び学生委員会	18
5) ネットワーク構築	18
6) 緊急事態への対応	18
7) 環境活動との連携	19
8) 化学物質リスクアセスメントの実施	19
2. 作業環境管理	
1) 職場巡視	19
2) 作業環境測定	19
3) 薬品管理システム	20
4) ハザードマップの作成	20
3. 作業管理	
1) 学内の実態把握	20
2) 実態に即した効果的な職場巡視の計画・実施	20
3) 日常の自主的管理の支援	21
4) 産業保健スタッフによる研究室の支援	21
4. 健康管理	

1) 過重労働による健康障害防止対策	21
2) 喫煙対策	22
3) ストレスチェック制度	22
5. 安全衛生教育	23
<資料編>	
資料1 学生定期健康診断受診率	24
資料2 学生への生活習慣に関する調査	30
資料3 学生への自覚症状に関する調査	32
資料4 学生定期健康診断精検結果	35
資料5 令和2年度学生, 院生 留年・休学・退学実態調査結果	36
資料6 施設利用状況	45

はじめに

令和3年度、昨年後半以降の医師1名欠員が継続している中でのCOVID19対応2年目となりました。令和2年と同様に1年を通じて新型コロナウイルス感染症対策に殆どのリソースを集中する事を余儀なくされ、昨年に加えて新型コロナウイルスワクチンの大学拠点接種も行い、昨年以上に多忙な一年でした。ワクチン接種は総合健康安全センターだけでなく医学部、附属病院の多くの医療職の皆様と全学の事務職員にお手伝いいただき学内の人的リソースのみで遂行することができました。ご協力いただいた皆様に深く御礼申し上げます。

健康診断は感染対策を講じつつ従来の方法にもどしました。感染者の発生時には休暇中や時間外にも接触者調査などに保健師の皆様には大変な負荷をかけ続けてしまいました。この状態を長期間続けることには無理があり、医療職の人的リソースを事務処理から開放することが急務であると実感しました。そこで、大学の戦略的経費に「保健管理のDx：医療職のリソースを選択・集中するための保健管理システム構築」を応募したところ高評価を得て満額が認められました。3年度中に開発をすすめる4年度からは大幅に事務作業を軽減することを目指し、現在微修正を加えながらも稼働を開始しています。

これまでも、総合健康安全センターでは講義などあらゆる場面を通じて感染症予防の啓蒙につとめてきました。COVID-19対策については学生向け学習教材、教員用の資料を作成し、サークル活動再開にはe-learning受講を必須としました。感染症は自分が罹患しないように注意するだけでなく、「自分が罹患した際に周囲に広めない行動をとる」という教育を重視してきました。しかしながら、必ずしも「人にうつさない行動」が徹底できていなかった事案も散見されたことは残念でした。

禁煙推進については、敷地内全面禁煙となり6年目となりました。いずれのキャンパスでも敷地内の禁煙はほぼ達成されつつありますが、キャンパス周囲のポイ捨てが続いています。禁煙支援を引き続き行うと共に、喫煙の害とマナーについても引き続き啓蒙を行っていますが、教職員の喫煙率が低下しないことが大きな問題と感じています。

これからも暫くはCOVID-19対策を中心とした業務が続いていきます。ワクチン集団接種などではこれまで以上に他部署の教職員の皆様のご協力が必要となっています。引き続き、皆様方のご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

令和4年5月

信州大学総合健康安全センター
センター長 森田 洋

<総合健康安全センター組織>

令和4年5月1日現在

センター長 森田 洋

教員

教授 森田 洋(医師(内科・統括産業医))
准教授 高橋 徹(医師(精神科))
助教 山崎 勇(臨床心理士)

看護職

松本キャンパス

林 弘子
藤森美里
長崎弥佳
鈴木宏美

教育学部

児玉邦代

工学部

小川智子
横井里沙

農学部

入原百合

繊維学部

渡邊里菜

カウンセラー(臨床心理士)

松本キャンパス

金井美保子
徳永まゆ子
行田太樹(非常勤)

教育学部

大場美奈
宮崎恵美子(非常勤)

工学部

山崎 勇
野村華子

農学部

下平憲子

繊維学部

山岡俊英

学校医(非常勤)

松本キャンパス

内科 安尾将法
内科 城下 智
内科 加藤沢子
精神科 金子 稔
皮膚科 山浦麻貴
婦人科 時光亜希子

教育学部

内科 佐藤俊夫
精神科 竹内博人

工学部

内科 武田 毅
" 小島貴彦
精神科 中澤友昭

農学部

内科 池上 泰
精神科 向山隆志

繊維学部

内科 森 浩二
精神科 遠藤謙二

産業医

松本キャンパス事業場

塚原照臣

松本附属学校園事業場

堀内博志

医学部附属病院事業場

金井信一郎

"

杉山暢弘

長野(教育)キャンパス事業場

城下 智

長野附属学校事業場

長谷川航平

長野(工学)キャンパス事業場

長谷川航平

伊那キャンパス事業場

増田雄一

上田キャンパス事業場

森田 洋

事務室

北原 斉(副課長・室長)

馬 佳琳(主査)

三村佳子(係員)

忠地美咲(臨時事務補佐員)

令和3年度総合健康安全センター年間事業・業務等実施状況

月	全学事業・会議・委員会・研修会等	実施日等		各キャンパス事業等	実施日等
4 6	・新入生ガイダンス	4/2～	松本 教育 工学 農学 繊維	・学生定期健康診断実施及びび有所見者再検査と事後指導	4/6～
	・e-Learning新任教職員研修	4/1		・問診票・生活習慣と健康白書のデータ集計	4/21～
	・学生相談センター及び学部学生相談室との会議	4/8,5/20,6/17		・新入生健康状態調査票・問診票による有所見者健康相談	4/1～随時
	・新入生メンタルヘルススクリーニング	4/2～		・全学教育機構保健室の開設	4/1～随時
	・講義「健康科学・理論と実践」(新入生)	4/7～		・尿検査(未検学生)	4/21～
	・全学安全衛生委員会(メール開催)	5/14～20		・禁煙教室(学生・職員)	4/1～随時
	・アレルギー調査	4/2～		・職員、学生特殊健康診断実施及び事後指導	6/2
	・日本学生相談学会第39回大会(筑波大学・オンライン大会)	5/16～17		・職員定期健康診断実施及びび有所見者再検査と事後指導	6/8, 10, 18
	・新型コロナウイルス対策(ワクチン接種等)	随時		・新学期学生ガイダンス	4/1,2
	・感染症等報告システム学生対応、情報カード教職員対応	4/1～		・2年生、大学院1年生メンタルヘルススクリーニング及び全員面接	4/1,2,13,14
				・学生定期健康診断実施及びび有所見者再検査と事後指導	4/2,5,4/6～
				・尿検査(未検学生)	4/15,16
				・教育実習事前調査 健康相談及び個別面接	4/7～20
				・教育実習連絡会 養護教諭との情報交換会	4/21
				・ 教育実習校の養護教諭との情報交換会	変更
				・職員定期健康診断実施及びび有所見者再検査と事後指導	5/19,21
				・職員、学生特殊健康診断実施及び事後指導	5/19
				・2・3年生ガイダンス(資料配布)	4/2
				・学生定期健康診断実施及びび有所見者再検査と事後指導	4/5～
				・学部生・修士メンタルヘルススクリーニング及び相談利用案内送信	4/1～7/16
				・問診票による事後相談	6/7～11
				・3年次編入試験救護	6/4
				・献血	6/23
				・学部2年次・3年次ガイダンス(メンタルヘルスと身体の健康教育)	4/1,2
		・学生定期健康診断実施及びび有所見者再検査と事後指導	3/29,4/5		
		・職員特殊健康診断実施及び事後指導	4/5		
		・農学部FD(下平 臨床心理士,春日 保健師)	6/21		
		・献血への協力	6/24		
		・学生定期健康診断実施及びび有所見者再検査と事後指導	3/30,31, 4/1,2		
		・ 学生検尿再検査 尿検査(未検・再検学生)	4/19～4/21		
		・学部2年生メンタルヘルス啓発講演会(山岡カウンセラー)	4～5月		
		・職員、学生特殊健康診断実施及び事後指導	5/18,26		
		・3年次編入試験・大学院推薦入試 救護	6/1,30		
		・留学生ガイダンス	6/18		
		・献血への協力	5/24		
7 9	・総合健康安全センター運営委員会	9/30	松本 教育 工学 農学 繊維	・要管理学生・BMI有所見者再検査及び事後指導	7/1～
	・ 総合健康安全センター業務打合せ・研修会	中止		・職員健康診断有所見者再検査及び事後指導	7/1～
	・全学安全衛生委員会(メール開催)	9/20～27		・オープンキャンパス救護	中止
	・学生相談委員会	7/8		・教育実習校との情報交換	5/13～
	・学生相談センター及び学部学生相談室との会議	7/15,9/2		・オープンキャンパス救護(オンライン開催)	7/18救護なし
	・感染症等報告システム学生対応、情報カード教職員対応	随時		・職員健康増進講演会(長野教育キャンパス産業医城下医師)	7/7
	・新型コロナウイルス対策(ワクチン接種等)	随時		・大学院入試救護	7/3
	・全国大学保健管理協会関東甲信越地方部会研究集会及び地方部会総会Web開催(群馬大学)	9/16,17		・職員、学生特殊健康診断実施及び事後指導	7/16
				・入試救護	7/7,12,8/23, 9/3
				・オープンキャンパス救護	救護なし
				・職員定期健康診断・特殊健康診断実施及び事後指導	9/18
				・大学院入試救護	8/20
		・ 救急救命講習会	中止		
10 12	・学生相談委員会	12/2	松本 教育 工学 農学 繊維	・要管理学生・BMI有所見者再検査及び健康指導	10/1～1/28
	・学生相談センター及び学部学生相談室との会議	10/21,11/18,12/16		・職員健康診断有所見者再検査及び事後指導	随時
	・ストレスチェック	10/1～22		・防災訓練救護班活動	11/5
	・国立大学保健管理施設協議会2021年度協議会総会(ピアザ淡海 滋賀県立県民交流センター)	10/8		・健康白書データ集計と提出	12,9提出
	・全国大学保健管理協会第59回全国大学保健管理研究会(広島大学)	10/6,7		・救急救命講習会	12/10,13
	・感染症等報告システム学生対応、情報カード教職員対応	随時		・ 大学院入試救護	中止
	・第59回全国学生相談研修会(オンライン開催)	11/21,22		・ 教育実習連絡会	中止
				・ 学校推薦型選抜入試救護	11/19
				・職員定期健康診断,10月入学生定期健康診断実施及び事後指導	10/6,8
				・推薦,大学院入試救護	11/21
				・ 防災訓練救護班活動	中止
				・職員、学生特殊健康診断実施及び事後指導	12/17
		・献血への協力	12/16		
		・ グループカウンセリング(野村カウンセラー)	中止		
		・防災訓練救護班活動	10/25		
		・農学部コロナとカラダの健康講座への協力	中止		
		・入試救護	11/20, 22		
		・献血への協力	11/18		
		・救急救命講習会への協力	中止		
1 3	・入学試験救護(大学共通テスト・前期後期試験)	1/15,16, 2/25,26,3/12	松本 教育 工学 農学 繊維	・職員定期健康診断実施及びび有所見者再検査と事後指導	10/1
	・アレルギー調査	2/22～		・献血への協力	12/20
	・全学安全衛生委員会(メール開催)	2/16～22		・職員、学生特殊健康診断実施及び事後指導	11/16,12/1
	・ 総合健康安全センター業務打合せ・研修会	中止		・推薦入試救護	11/20
	・ カウンセラーの集い	中止		・ 防災訓練救護班活動	中止
	・学生相談委員会	3/1		・職員、学生特殊健康診断実施及び事後指導	1/18
	・学生相談センター及び学部学生相談室との会議	1/20,2/17,3/3		・教育実習連絡会	1/12
	・第23回フィジカルヘルスフォーラム(名古屋大学)	3/17		・職員、学生特殊健康診断実施及び事後指導	1/13,2/1
	・ 衛生管理者・安全管理者研修会	中止		・次年度新入生麻疹予防接種歴調査	3/7～3/30
	・新型コロナウイルス対策	随時		・特別選抜入試救護	2/15
	・感染症等報告システム学生対応、情報カード教職員対応	随時		・ グループカウンセリング(野村カウンセラー)	中止
				・職員特殊健康診断実施及び事後指導	2/22
		・卒業式救護	3/21		
		・卒業式救護	3/24		

< 日常業務 >

(1) 保健管理活動業務

- ・診療(内科・整形外科・婦人科・皮膚科・精神科)
- ・カウンセリング(含附属学校園スクールカウンセリング)・健康相談・応急手当
- ・感染症対策
- ・救急箱貸出・健康診断証明書発行・臨時健康診断(体育授業・大会出場関係)
- ・内科医、精神科医、嘱託産業医巡回
- ・**健康増進教室**

(2) 安全衛生活動業務

- ・勤務時間記録書データ入力及び法定面接指導等対象者の把握
- ・長時間労働対象者に対する産業医面談,医療面談の施行
- ・長期休職者に対する職場復帰プログラムの実践
- ・松本キャンパス安全衛生委員会・安全衛生活動
- ・隔地事業場安全衛生委員会陪席・衛生管理者職場巡回支援
- ・内科医、精神科医、嘱託産業医巡回
- ・労基署各種届出

I 健康管理

心身の健康状態を把握し、健康障害の防止、健康増進を図る。

1. 健康診断

1) 健康診断の実施

教職員、学生の健康状態を把握し、健康障害の防止、健康増進を図る。

(1) 教職員定期健康診断の検査項目

① 法定項目

内科診察、身長、体重、視力及び聴力（1,000ヘルツ及び4,000ヘルツの音に係る聴力）、胸部エックス線検査、血圧の測定、貧血検査（赤血球数、血色素量）、肝機能検査（GOT、GPT、 γ -GTP）、血中脂質検査（LDL-C、HDL-C、中性脂肪）、血糖検査（空腹時血糖又は随時血糖、ヘモグロビンA1c）、尿検査（尿中の糖及び蛋白）、腹囲の測定、心電図検査

② 法定外項目

貧血及び造血器疾患検査（ヘマトクリット、白血球数、血小板、血清鉄）、消化器疾患検査（ペプシノーゲン、ピロリ菌抗体）、ウイルス性肝炎検査（HBs-Ag（定性）及びHCV-Ab（定性））、膵臓疾患検査（アミラーゼ及びCA19-9）腎疾患検査（クレアチニン）、高尿酸血症（尿酸値）、前立腺がん検査（PSA）、卵巣がん検査（CA125）及び大腸がん検査（便潜血）

令和3年度における教職員定期健康診断は人間ドック等の受診者を含め、定期健康診断の予定者はほぼ受診した。学内での健康診断実施は新型コロナウイルス対策に十分配慮し、受付時間を指定し混みあわないよう留意した。

(2) 学生の健康診断について

学校保健安全法に基づき、身長・体重測定、視力測定、聴力検査（会話域）、血圧測定、尿検査、胸部X線検査、内科診察を実施した。**（資料1）**

令和3年度は全学生対象に身体的・精神的な自覚症状や生活習慣を把握するためのウェブ問診を実施し、その回答をもとに有所見者には内科診察や健康相談を実施した。

あわせて新入生に対しては「新入生健康状態調査票」から、既往症や現病、感染症のワクチン接種歴、アレルギー、機能障害等の健康状態を把握し、入学後の体調についても確認を行った。

① 生活習慣（資料2 生活習慣）

- ・喫煙習慣は、学年が上がるに従い喫煙率は上昇しているが、全体の喫煙率は3.1%で昨年に比べ0.6%減少している。
- ・飲酒習慣は、学年が上がるに従い飲酒率は上昇し、3年生で66%を超えたが昨年度と比べると8%減少している。
- ・運動習慣は、学年を通してその割合に著しい差は認めず、時々している学生が65%前後、毎日している学生は13%前後で昨年度に比べ約5%増えている。男女別にみると、女子の方が運動をしない人の割合が多い。
- ・朝食習慣は、毎日食べている学生は1年生では78%を超えていたが、学年が上がるに従いその割合は低下し、2年生以上では男子は49%、女子は60%となり朝食をとらない学生は、男子に多い傾向がある。

② 自覚症状（資料3 自覚症状）

- ・自覚症状の全体集計では肩こり（31.0%）、めまい・立ちくらみ（26.5%）など、身体的愁訴が多くみられた。
- ・男子学生（3,367名）では、肩こり（31.0%）や気疲れ（23.4%）に続いて、めまい・立ちくらみ（22.1%）に続いて、決断力の低下（20.2%）などが上位を占めた。
- ・女子学生（2,140名）では、肩こり（47.1%）、めまい・立ちくらみ（33.4%）となっていて、気疲れ（29.6%）むくみ（24.9%）、決断力がない（18.8%）や根気がない（21.2%）などの症状が多かった。
- ・学年別に自覚症状を見ると、学年間において著しい差は認めなかったが症状を訴える割合がすべての項目で前年度より5%前後増えていた。

③ まとめ

- ・生活習慣は、入学した直後の1年生時と比較して、学年が上がるに従い飲酒割合や朝食欠食などが増加することが分かった。この結果を元に、1年生は生活の自己管理ができるように指導すること、また上級生は生活習慣の悪化を抑制するような生活指導を行うことが必要と考えられた。
また喫煙習慣は、1年生ではほとんど喫煙者がおらず全体的にも年々喫煙率は減っているが、一旦喫煙を開始してしまうと辞めることが困難になる為、1年次の「健康科学・理論と実践」で喫煙による影響、体に及ぼす害など喫煙予防について講義をしている。また飲酒についても講義をし、新入生はアルコールパッチテストを全員に配布しセルフチェックができるようにした。
- ・自覚症状は、傾向として全体的に「肩こり」「めまい・立ちくらみ」が上位を占めている。これは近年変わらない傾向にあり、コロナ禍でオンライン授業も増え、学生のパソコン・スマートフォンの使用状況が影響を及ぼしているのではないかと考えられる。今後はこれらの結果を元に、学生のニーズに応じて具体的なサポートに努めたい。

2) 健康診断事後措置・保健指導

健康診断結果の有効な活用を行うために事後措置を行う。

健康診断の結果、異常が認められた場合には、個別に診察、再検査、保健指導などの事後指導を実施した。**(資料4)**

また随時、禁煙希望者への禁煙サポートやメタボリックシンドローム予防のため活動量計を用いた健康支援を実施した。

2. 保健室における感染症対策

さまざまな感染症の発生に対して、学生は感染症報告システム、教職員は情報カードを用い健康危機管理を実施している。

令和3年度も新型コロナウイルス対応が中心となったが、体調不良者への早期対応として電話で体調確認を実施し、状況に応じて保健所や医療機関への相談を勧め、受診結果から濃厚接触者への対応を迅速に実施し感染症の拡大を阻止することができた。

また、新型コロナワクチン職域接種を7月から10月にかけて全キャンパスで実施し、大学生活を平常に戻すべくワクチン接種の加速化を図った。

3. メンタルヘルス

1) 休学・不登校等の学生対応、休職教職員対応

休学・休職の情報収集と分析を行い対応する。教職員については、職帰復場支援プログラムの定着を図る。

(1) 留年、休学、退学調査と対応

① 調査方法

「休学者・不登校学生の情報収集、分析及び指導方法等」については、平成17年11月8日開催の第46回学生委員会において、総合健康安全センターで実態を把握して学生委員会で指導方法等の検討をすることが了承されており、これに基づき学生の留年、休学、退学調査を行った。実際の調査内容は、学部学生については茨城大学から、大学院学生については東京工業大学からの依頼に基づき各学部及び研究科に依頼して作成した令和2年度留年・休学・退学実態調査を、総合健康安全センター事務室でまとめたものである。

② 調査内容

令和3年度における学部学生、大学院生それぞれの留年、休学、退学について、留年は学部等ごとに留年者数、留年率の年度別変遷及び入試区分別データを、休

学は学部等ごとに休学者数の年度別変遷，入学年度別，分類群（背景因子）別及び入試区分別データを，退学は学部等ごとに退学者数の年度別変遷，入学年度別，分類群（背景因子）別及び入試区分別データをまとめた。

また，このデータを各学部等に送付するとともに学生委員会で報告し，学部等において学生指導をする際の参考データとして利用されている。

以下にデータのうち平成25年度から令和3年度の年度別留年率，令和2年度の入学年度別休学，退学状況の調査について掲載する。**（資料5）**

<学部学生編>

① 留年について【留年】②

平成25年度から令和3年度の年度別留年率「各年度の在学生数に対する留年生数の割合」の各年度の5月1日現在は，平成25年度，26年度は減少，27年度はやや増加，28年度は大幅に減少，29年度は再び増加，30，31年度は横ばい，令和2年度は減少し，3年度やや増加となった。

② 休学について【休学】②

入学年度別の休学者は，海外留学を含めて留年生が57名と最も多く，次に入学4年目の平成29年度入学者（47名），30年度入学者（24名），31年度入学者（24名），令和2年度入学者（13名）となっている。また，休学者166名に占める留年生57名の比率は34.3%（前年度31.9%）で，留年生として在学している者に占める休学者の比率は，13.77%（前年度13.84%）と継続して高い傾向にある。

③ 退学について【退学】①

令和2年度における退学者は全体で109名（前年度158名・49名減）であった。入学年度別の退学者を見ると留年生が34名で全体の31%を占めている（前年度65名（41%））。次いで平成29年度が25名，平成31年度が21名，令和2年度が15名，平成30年度入学者14名などとなっている。また，退学者109名中81名（74.3%）（前年度158名中120名（75.9%））が男子学生で，そのうちの22名（27.1%）が留年生である。

また，在学者全体（留年生含む）に対する退学率は1.25%であったが，このうち留年生の在学者の退学率は8.21%と昨年度（13.43%）に比べ減少したが依然高い傾向にある。

<大学院学生編>

① 留年について

平成25年度から令和3年度の年度別留年率「各年度の在学生数に対する留年生数の割合」の各年度の5月1日現在を%で表したものである。

ア 修士課程（博士前期）**修士留年②**

25年度から26年度に増加，27年度，28年度と減少し，29年度再び増加した

が、30年度から令和3年度まで毎年度減少傾向にある。研究科別にみると、人文の留年率が26、29、令和2年度に急激に増加している。経済社会は26年度以降、減少傾向となっていたが、29年度再び増加した後、30年度以降は減少に転じ、令和3年度は0%だった。また、医学系については25年度以降減少傾向だったが、29年度に増加、30年度以降は減少に転じ、令和3年度はやや増加になった。

イ 博士課程（博士後期）・専門職 **博士留年②**

留年率の経時的変化では、留年率の高かった工学系は、25年度以降は増加の傾向にあったが、令和3年度は医学系の方が上回った。男女別の平均をみると25年度からは女子が男子を上回り、令和元年度に男子が女子を上回ったが、令和2年度は女子が、3年度は男子が上回る結果となった。

② 休学について

令和2年度の入学年度別の休学者は、

ア 修士課程（博士前期）**修士休学②**

入学年度別の休学者数は、長期履修生が10名で休学者全体の33.3%、令和元年度入学者（留年生を除く者）が8名で休学者全体の26.7%、次いで令和2年度入学者（留年生を除く者）が7名で休学者全体の23.3%を占めている。長期履修生としての在学者総数に占める休学率は38.46%（前年度28.00%）と増加している。

イ 博士課程（博士後期）・専門職 **博士休学②**

入学年度別の休学者数は、留年生が22名と最も多く休学者54名に占める割合は40.7%となっており、留年生の休学率は留年生としての在学者数の44.90%と高い。また、研究科別に休学者数をみると、医学系が15名と留年生の休学者全体の68.18%を占めている。

③ 退学について

令和2年度の入学年度退学者は、

ア 修士課程（博士前期）**修士退学①**

令和2年度における退学者は全体で29名（前年度39名）である。男子26名（前年度31名）、女子が3名（前年度8名）と男女とも減少している。また入学年度別・男女別に見ると、令和元年度男子10名（留年生除く）、次いで2年度男子8名（留年生除く）が多くなっている。また、女子は全体で3名（10.3%）となっている。また、過去7年間の退学者数を見ると、28年度までは減少傾向にあったが、29年度は急激に増加、30年度は横ばい、令和元年度以降は減少傾向である。

イ 博士課程（博士後期）・専門職 **博士退学①**

令和2年度における退学者数は全体で40名（前年度39名）であったが、男子が33名（82.5%）と多い。また入学年度別・男女別に見ると、29年度男子14

名（留年生除く）が最も多い。また、研究科別にみると、医学系が男子女子合わせて22名と休学者全体（留年生含む）の55%を占めている。なお、過去7年間の退学者数をみると26年度から28年度までほぼ横ばいの状況であったが、29年度は急激に増加、30年度は横ばい、令和元年度に減少し、2年度はほぼ横ばいであった。

（2）信州大学職場復帰支援プログラムの実施

法人化後に開始した「信州大学職場復帰支援プログラム」は職員に浸透し早期から産業医が復職に関わる体制が確立している。1ヵ月以上病気休業した後に復職する場合には職場復帰支援プログラムを利用して、円滑な職場復帰の支援を行っている。1ヵ月以上の療養を要する診断書が提出されると、職場等から総合健康安全センターに連絡が入り、復帰支援プログラムの第1ステップに則り病気休暇当初からの支援を開始している。このことは、原因は何か、職場に関連した問題が病状に影響を与えていないか否か、病気休暇早期の段階で鑑別することを可能とする。もしも職場に関連した問題が病状に影響を与えている場合には、良質の自宅療養、早期の疾病の改善の実現のために、できる限り早急に対応することとしている。その場合、本人面談のほか、主治医からの情報提供、上司、人事部門、家族等と連携し、病気休暇が長期化しないように努めている。本年度からは医学部附属病院の提供する職場復帰プログラム（復職前のリハビリテーション）を利用する職員も増えつつあり、復職後も附属病院専門職が職場にアドバイスをする機会がもたれ、より円滑な復帰につなげられることが期待される。

2) メンタルヘルス対策

カウンセリング体制を整備、充実しつつ、学生および教職員の心の健康管理を行う。学生相談センターと連携、協働して全学の精神保健状況の実態把握に努め、課題を把握し、対策を検討し、対応を図る。

学生のメンタルヘルス対策については、当センター精神科医および臨床心理士が、学生相談センター所属の臨床心理士や各キャンパスの保健師・看護職、各学部学生相談員、担当教職員と連携、協働して取り組んでいる。全てのキャンパス・学部に臨床心理士が常駐する体制によって、緻密で円滑な連携が可能となっている。

教職員のメンタルヘルス対策については、各部署担当の産業医を中心に適宜当センターの精神科医、産業医、臨床心理士が連携し対応している。

令和3年度は精神科医、臨床心理士合わせて全学で延べ4,308名の学生メンタルヘルス相談と延べ255名の職員メンタルヘルス相談が行われた。

個別カウンセリングや心理検査、精神医学的対応のほか、学内外関係部署との連携も適宜行い、学生や教職員に対して最善の支援が行われるよう努めている。また、新入生全員に対して、メンタルヘルスチェック（「大学生活に関する調査」：対人関

係、希死念慮、カウンセリング希望などを含めた52項目)を入学時の段階で実施した。例年、必要がある者については呼び出し面接を実施してきたが、令和3年度は当施設におけるコロナ感染拡大防止のために、新入生に対して積極的な介入は実施しなかった。(新入生以外に、工学部の2年生以上においてもメンタルヘルスチェックを実施しており、こちらは高得点者に対する相談の呼びかけを電話にて実施した)。

(1) 各学部相談室にかかる活動

全学部において、各学部学生相談室に担当カウンセラーと保健師・看護職が構成メンバーに加わり、学部の相談委員や教職員と協働連携をはかりながら相談室の運営に携わっている。具体的には、相談活動に関するコンサルテーション、相談室主催の企画に関する助言・提案、学生対応の指針作成、チューター面談の補助、FD・SD、支援会議など各学部の特色やニーズに応じた活動を行っている。

(2) 教育学部附属学校園スクールカウンセリング

教育学部附属6校園(長野3校・松本3校園)を対象にスクールカウンセリングを行っている。長野地区、松本地区それぞれ週1日を各校の実情にあわせて時間配分を行い対応している。児童生徒の個別カウンセリングや保護者との個別面談の他、児童生徒・園児の行動観察、教師とのコンサルテーション、チーム支援会議への出席などを行っている。また必要に応じて児童相談所、保健センター、医療機関など学外関係機関との連携も行い、児童生徒・園児へのよりよい支援体制の整備にも努めている。

(3) カウンセラー間の協働・連携

・カウンセラーミーティング

カウンセラーの技術向上や情報共有のため、当センターと学生相談センター所属の臨床心理士合同によるミーティングを計8回(令和3年5月24日、6月21日、7月12日、10月18日、11月15日、12月13日、令和4年1月17日、3月14日)(新型コロナウイルス感染症対策のため、すべてオンライン会議にて開催)を行った。ハイリスク事例の情報共有や対応の検討、発表者持ち回りの事例検討、各学部の状況報告などがその内容である。

・カウンセラーの集い

例年、年2回(8月と3月)、当センター所属の医師、常勤心理士、非常勤臨床心理士、学生相談センター所属の臨床心理士が集まり、情報交換や必要事項の検討を行っていたが、令和3年度は新型コロナウイルス感染対策のため実施を見合わせた。

4. 過重労働による健康障害防止対策

平成18年度に労働安全衛生法が改正され、信州大学では「過重労働からの健康障害を防ぐための指針」を作成し教職員に対する過重労働対策に積極的に取り組んできている。

裁量労働制の教員は、毎月勤務時間記録書を提出し、本人の申出がある場合と、過重労働（裁量労働制の教員で時間外労働が100時間超もしくは3ヶ月連続80時間超、裁量労働制以外の職員で時間外労働が60時間超）がみられた教職員に対しては総合健康安全センターから通知し、産業医面談を呼びかけると共に、疲労度チェックを行って頂き健康状態の把握に努めている。また、本人の申出がなくとも、健診の結果及び当センターへの受診や相談の状況及び職場からの意見を考慮し産業医面談を積極的に行い、専門医の受診、治療専念を進言している。産業医面談を含めた産業医へのニーズは増加しており附属病院を担当する1名を増員した（保健学科杉山教授が兼務）。

裁量労働制教員の勤務時間記録書の提出の徹底は全学でほぼ100%を達成することができた。また、各事業場（キャンパス）の安全衛生員会でも長時間労働についての議論が充実してきており、昨年度よりも長時間勤務者は減少してきている。また、産業医面談の機会を増やすために、産業医面談は対面に加えて Google meet を利用した遠隔面談を積極的に利用する事で、新型コロナ感染症に対応した面談を実施することが出来た。一年間でのべ113件の過重労働面談を実施した。

そのほか、看護職の段階での連絡、確認、相談によるフォローアップも充実しており、医師が非常勤である事業場での健康管理は円滑に行われている。

5. 診察・応急措置

病気や怪我の措置に当たる。

診察は、内科、精神科、整形外科、皮膚科、婦人科について、当センター医師、学校医が行い、日常業務は看護職が対応している。また、カウンセラーによる相談も実施している。（施設利用状況 学生・職員）**（資料6）**

6. 感染症対策

さまざまな感染症の発生に対して健康危機管理として対応を行っている。令和3年度は麻疹・水痘・結核などの発生の報告はなく、COVID-19感染対応が中心であった。なかでも、年度当初感染はかなりおちついた状況であったが、夏から10月の前期終了から後期開始時期に散発的な感染がみられていた。2022年1月の年末年始の移動、成人式に関連した感染が全国同様に本学でも発生し、その後年度末まで多数の感染者が発生した。同時に職員も家族の感染に伴い発症する例がみられた。令和3年度は学生247名、教職員（附属病院で管理する者を除く）54名の感染者が発生した。

このようななかで、本学でも7月2日から大学拠点（職域）接種を開始した。松本キャンパスでは総合健康安全センターを会場に実施し、附属学校教職員を含む本学構成員だけでなく、県内公立高校教員や他校の生徒にも接種を行った（1日辺り最大480名計40日）。松本以外のキャンパスは医学部および医学部附属病院にご協力いただき多数の医療職の応援を週末に実施した（1日最大1360名計13日）。各地でも長野県立看護大学、長野高専はじめ県内他校の教職員、公務員、消防団員への接種を行った。第3回接種も3月4日から開始した。

7. 健康教育

1) 健康科学・理論と実践

全学1年生必須の「健康科学・理論と実践」について、総合健康安全センターは「理論」を担当している。健康増進、生活習慣病を防ぐ、メンタルヘルス、ライフスキルアップ、薬物に対する注意、性の健康について知識の習得を図る目的で、学期を前半、後半において各クラス100人前後の20クラスの学生に対して、計7回の講義を行い、全学教育機構の体育担当教員が8回実技を分担している。本年は昨年度と同様に産婦人科医師の担当を除く講義のすべてを総合健康安全センターの医師・公認心理士が担当し、感染状況に対応した教室が確保できないためすべてオンライン（非同期型）で実施した。内容の充実も図り、個人の健康という側面だけでなく、社会全体の問題、ダイバーシティと健康といったアプローチの充実をはかった。従来の生活習慣、禁煙、飲酒の害、精神疾患、コミュニケーション、性の健康に加えて、「ダイバーシティと障害」「認知症サポーター養成講座」も健康科学理論の中で開講した。

(1) 授業のねらい

健康科学・理論は、受講者が学生時代はもとより生涯に渡って心身の健康の維持増進について正しい認識と習慣を得ることを目的とする。

(2) 授業の概要

健康は個人、社会、地球環境にまたがる大きな課題である。こうした観点から、この科目は心身の健康、キャンパスにおける安全、社会における望ましい人間関係、環境と健康、などについての知識と行動規範の修得を目標とし7回の講義を行った。

① イントロダクション、健康なキャンパスライフのために（担当 森田）

本講義開設の主旨、概要、受講に関する注意事項を解説したのち、健康なキャンパスライフを過ごすためのフィジカルヘルス（肉体的な健康）について、食生活、睡眠、禁煙、アルコールの害（アルコールハラスメント対策を含む）、感染予防（麻疹、結核、インフルエンザ、ノロウイルス）について解説した。また、例

年学生支援課の協力で講義中にアルコールパッチテストを全新生に行っていたが、オンラインのため総合健康安全センター（ワクチン接種開始後は共通教育係で）配布した。アルコールハラスメント、急性アルコール中毒の防止に役立つと期待される。

② メンタルヘルス概論（担当 高橋）

青年期は人生において最も心が激しく揺れ動く時期であり、誰でも心の健康を損なう可能性があるが、そのことを理解している者は少ない。心の健康を維持するために、学生が注意すべきことは何か、また、心の健康を害したときに、どのように対処すべきかについて、主として大学生によくみられる心の病気を取り上げて解説した。

③ ライフスキルアップ（担当 公認心理士）

センターカウンセラーが担当した。社会に適応していくために、大学においてもライフスキル（社会人基礎力）の向上を図ることが求められている。この授業では、対人コミュニケーションに焦点をあてた講義・演習を通して、ともに学び働くために必要な仲間との関係を構築・維持するためのコツを学ぶようにした。大学でも、さらに卒業後にも通用する対人コミュニケーションの体得へ向けた第一歩となることを期待している。

④ ダイバーシティと障害（担当 山崎）

障害に対する理解を深め偏見なく対応するために必要な基礎的知識、姿勢を身につける事を主眼に講義を行った。

⑤ 薬物乱用を防ぐ、海外渡航時に注意すべき感染症（担当 森田）

大麻等違法薬物が学生に蔓延してきている。興味本位で違法薬物に手を出してしまうことが多いが、市販薬・抗菌薬の乱用の害も増加している。これらの薬物乱用を広く扱い、社会的、健康的両面からの問題を理解し、正しく対処する事の意義を理解するようにした。

また、大学として海外留学を推進するなかで、海外特有の健康問題についての理解を深める重要性が増している。昨年後期から講義内容を改め、海外渡航時に注意すべき感染症に対する予防法危険を事前に予知する事の重要性、その情報を収集する手段についての情報提供、自己管理の動機付けを行った。

⑥ 認知症サポーター養成講座

認知症サポーター養成講座は厚生労働省が推進する認知症サポーターキャラバン事業「キャラバン・メイト養成研修」を修了したものが、講師となることが出来る。サポーター養成講座を受講した者にはオレンジリングが全国キャラバン・メイト連絡協議会から配布される。森田は松本市の開催するキャラバン・メイト養成研修にも協力し、行政が開催主体である認知症サポーター養成講座を、信州大学生を対象に講義の一環として開催する体制を整えた。

⑦ 性感染症予防，性の健康 （保健学科金井教授）

性の健康について正しく理解するための知識を習得し，またパートナーとの関連性も含め，性被害に遭わないために知っておくこと，実践すべき事などを理解するようにした。また，先進諸国のなかで日本ではHIVなど性感染症に罹患する若者が増えている。クラミジア感染症は自覚症状が乏しいが，女性の不妊の要因となりうる。性感染症の概要，予防について解説した。妊娠，性被害など性の健康について解説した。

2) メンタルヘルスに関する教育

FD・SD等を通じて，学生相談担当教職員の技能向上を図る。また，学生，教職員が，セルフケア，ラインによるケアができるよう教育を行う。

FD・SD，学生向けガイダンス，ワークショップ等を下記の日時で行った。

(1) FD・SD

・メンタルヘルス講演会

例年夏に外部講師を招き講演会を実施していたが，新型コロナウイルス感染対策・コロナワクチン接種業務のため，令和3年度は予定していた講演会の実施を取りやめた。

・医学部FD

演題：第23回医学教育FD「コロナ禍におけるメンタルヘルス」

講師：高橋准教授

日時：令和3年12月17日

開催方法：オンライン実施

・人文学部FD

演 題：新型コロナウイルス感染症対策下を踏まえた学生ケアについて～2年目を迎えて～

講 師：徳永カウンセラー

日 時：令和3年6月22日 13:30～14:00

場 所：人文・経法学部棟6F会議室およびZOOM配信

・農学部FD

演題：コロナ禍における学生相談および学生対応状況について

講師：下平カウンセラー・春日保健師

日時：令和3年6月21日 13:00～14:00

場所：農学部大会議室及びZoom配信

・工学部FD

教員に対するFDを総合健康安全センター長森田洋教授に依頼していたが、新型コロナウイルスワクチン接種対応のため、中止とした。

・安全衛生FD講演会

理学部FD

演 題：新型コロナウイルス感染症対策

講 師：森田洋教授

日 時：令和3年6月1日

場 所：理学部会議室 オンライン

(2) 新入生・在学生等ガイダンス

<松本キャンパス>

・新入生ゼミナール「こころの健康」

例年は、精神科医と常勤カウンセラーが分担して、各学部の新入生を対象に講義形式の授業を実施してきたが、令和3年度は新型コロナ感染拡大防止のためにWEB上（eAlps）で学習する形態に変更した。

<教育キャンパス>

令和3年4月 新学期学部生ガイダンス（動画をeALPSに掲載）

令和3年4月 新学期研究科大学院ガイダンス（動画をeALPSに掲載）

令和3年4月 教育実習Ⅰ・Ⅱガイダンス（動画をeALPSに掲載）

<工学キャンパス>

工学部2年生全体ガイダンス、3年生全体ガイダンス、工学部新入生学部全体ガイダンス・保護者ガイダンスでの、相談窓口紹介を実施する予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。

<伊那キャンパス>

令和3年4月1日 農学部3年生生活ガイダンス

令和3年4月2日 農学部2年生全体ガイダンス

<上田キャンパス>

令和3年4月 新年度ガイダンス（オンライン上に動画を掲載）

内容：学生生活サイクルとストレス、カウンセリング利用案内

令和3年6月18日 留学生ガイダンス（オンライン）

講話「留学生生活とこころの健康」

(3) 学生向け講演会・ワークショップ

- ・保健学科新入生合宿研修への講師派遣が予定されていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。

- ・繊維学部 メンタルヘルス啓発講演会（2年生対象）

演 題：「健康なキャンパスライフを過ごすために」

講 師：山岡カウンセラー

日 時：4月から5月にかけて、オンデマンドのオンライン形式で実施

3) 一次救命講習

AEDの設置に伴い、一次救命措置が行えるようにする。

平成23年度より従来松本キャンパスの学生及び教職員を対象としていたものを、医学部附属病院を除く全学の学生及び教職員を対象を拡大して実施している。松本キャンパスでは松本広域消防局丸の内消防署の指導のもと、例年2回の講習会を開催していたが、新型コロナウイルス感染症への対応として、令和3年度の開催は見送った。このため、『学生生活案内2022』において日本赤十字社ホームページ上で公開されている救命処置動画の視聴を促す等の代替策をとった。

II 安全衛生

1. 総括管理

教職員と学生の安全衛生管理体制に関する基盤を確立する。

1) 安全衛生に関する方針・目標・計画の策定と評価

学内の実態を反映させ、活動の方針・目標・計画を作成し、定期的に評価、見直しを行う。その中で、労働安全衛生マネジメントの導入を図る。

(1) 安全衛生に関する基本方針

基本理念

信州大学は、本学の教職員・学生の安全と心身の健康を守り、快適で健全な就業・修学環境を確保するため、積極的かつ継続的に安全衛生活動と健康づくりに取り組みます。また、安全衛生に対する意識と環境マインドを併せもつ人材を育成し、地域社会及び国際社会に貢献することを目指します。

基本方針

- 教職員・学生のための健康維持・増進活動を積極的に支援します。
- 教職員・学生の健康安全を守り、良好に保持するため、教育研究環境の継続的な改善に努めます。
- 法令を遵守し、高い倫理観をもって、安全衛生活動を推進します。
- 豊かな環境マインドを醸成しつつ、安全衛生意識の向上に努めます。

(2) 安全衛生活動の年間計画

全キャンパスの年間活動案について、信州大学安全衛生委員会に提示，これをもとにして各キャンパスでも年間計画が策定された。

2) 学内の実態調査と情報の更新

学内の実態調査及び把握を行うことで実態に見合った活動を計画する。実態調査は定期的に行い，更新する。

学内の実態については，日常の診療，健康相談，労働衛生相談，労働災害報告，過重労働面談，職場巡視結果等から，知ることができる。これらの実態把握から見られる傾向をもとに，組織または個人への安全面や衛生面に関する対応を行っている。組織的な対応が必要な場合は，安全衛生委員会，学生委員会及び学生相談委員会を通じて周知を行っている。

3) 安全衛生管理体制の構築

管理体制の構築と再点検，産業保健スタッフの養成と支援を行う。研究室単位の自主管理体制の支援を行う。

(1) 産業医と衛生管理者の養成

法定の週1回の職場巡視に対応するため，法人化後平成22年度まで衛生管理者を養成し，現在は年1回衛生管理者・安全管理者に対する研修を実施しているが新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。

また，現在学内の産業医有資格者は合計20名に達している。

(2) 産業医会議の開催

産業医会議は，本学の8事業場の嘱託産業医と当センターの医師が集まり，意見交換，情報共有を行う場である。例年，年1回を目安に開催し，その期間の課題，過重労働対策，復帰支援状況，各事業場の安全衛生委員会の内容などについて意見交換，情報共有を行っているほか，新規の法改正やガイドライン策定があった場合，本会議においてその紹介と解説を行い，産業医全員で情報共有を行っている。今後も引続き産業医会議等により各嘱託産業医の活動内容について報告

すると共に、法人へ意見すべき事項がある場合には建設的な意見を提案し、その機能を果たして行く予定である。

4) 安全衛生委員会及び学生委員会

実態を確実に把握し、両委員会を通じて活動内容の審議を行う。

年3回、信州大学安全衛生委員会（全学）を開催し、安全衛生活動について審議、報告を行い、全学の安全衛生活動の方向性を定めた。また、各事業場は毎月安全衛生委員会を開催して、安全衛生計画の策定及び実施報告、定期健康診断報告、職場巡視及びその結果への対応、過重労働対策などの活動状況の報告・審議が行われた。当センターは、信州大学安全衛生委員会、松本キャンパス事業場安全衛生委員会の報告・審議事項の提案を行った。総合健康安全センター事務室は、安全衛生委員会における事務局として、報告・審議事項のとりまとめを行っているほか、全学的な対応が必要な事項については、各キャンパスの安全衛生担当窓口へ指示、連絡等を行った。

毎月開催される学生委員会にセンター長、総合健康安全センター事務室長が出席し、学生の健康管理、メンタルヘルス、留年・休学・退学実態調査結果への対応など審議・報告を行ってきた。

5) ネットワーク構築（HP、e-learningの活用）

学内の安全衛生活動の支援のため、ネットワークを構築、活用を行う。

学内の安全衛生活動の支援のため、HPを活用し、学生、教職員へ情報発信を行ってきた。薬品管理システム、健診日程の掲示をはじめ各種のお知らせを行った。

6) 緊急事態への対応

学内の各種災害に備えるとともに、事態への対応を行う。

令和3年11月5日、松本キャンパスにおいて教職員及び学生による防災実務の習得、災害時の情報収集・伝達の迅速化および防災意識の高揚を図るため防災訓練が行われた。総合健康安全センターとしては、避難訓練、災害対策組織設置訓練に参加するとともに、災害において傷病者が発生したと想定し、救助実務訓練を行った。

緊急事態への対応の一つとして、学生・教職員の学内でのケガや事故、感染症への対応がある。修学環境や就業環境に原因があると考えられるケガや事故の場合には、現地の視察等を行い、対応を検討している。

7) 環境活動との連携

安全衛生活動を通じて「環境マインドを持つ人材の養成」を行う。

本学は、信州大学環境方針を掲げ、「環境マインドを持つ人材の養成」を行っている。EMS事務局を中心に、内部監査員による内部監査が実施され、本学においては全学的に環境活動が展開されている。一方、安全衛生活動においても、職場環境について衛生管理者及び産業医等が巡視を通じてチェックを行い、改善が行われている。環境活動としての内部監査、安全衛生活動としての職場巡視は双方重なり合う部分もあり、整合性を取り、連携する必要性が時に指摘される。こうした中で、安全衛生の基本方針にある通り、豊かな環境マインドを醸成しつつ、安全衛生意識の向上に努めている。

8) 化学物質リスクアセスメントの実施

労働安全衛生法の改正に伴い、平成28年より化学物質のリスクアセスメントが義務化された。本学では、化学物質を取り扱う研究者を対象に、コントロールバンディング法によるリスクアセスメントを実施するよう依頼した。総合健康安全センターにリスクアセスメント方法を記載し、また必要に応じて学部を訪問して方法の説明を行った。各自で実施されたリスクアセスメントは、その件数のみ所属部局の安全衛生委員会において報告することとした。今後もリスクアセスメント活動を継続して化学物質による障害を予防し、また必要時にはその方法を改善していく予定である。

2. 作業環境管理

作業環境中の危険有害要因を取り除いて適正な作業環境を確保する。

1) 職場巡視

職場巡視を通じて、研究室の作業環境管理を適切なものにする。

定期の職場巡視については、衛生管理者を中心に実施された。それに合わせて産業医や安全管理者の職場巡視が実施された。職場巡視結果は、安全衛生委員会にて報告され、職場環境の状況が周知されると共に職場環境の改善につながっている。臨時の職場巡視としては、学生や教職員の怪我や事故などが発生した場合に、現場の確認を行った。

2) 作業環境測定

労働安全衛生法施行令第21条に基づく作業環境測定を実施し、結果に基づいた対策を検討する。

作業環境測定は、各事業場において、その職場環境にある危険有害要因に沿って行われた。本学においては、主に電離放射線、有機溶剤、特化物について、作業環境測定が行われた。

3) 薬品管理システム

学内における化学物質使用量の正確な把握を行う。

学内における薬品使用量の把握は、薬品管理システムにより行われている。

総合健康安全センター事務室は、薬品管理システム運用専門部会の事務局を務め、全学における薬品管理システムの運用の管理を行っている。薬品管理システムに関する情報は、総合健康安全センターのホームページに掲載されており、利用率の向上に努めている。

4) ハザードマップの作成

学内の危険有害要因を化学物質と特定し、その対策を講じる。

ハザードマップの作成は、第1期中期目標・中期計画（平成16年4月1日～平成22年3月31日）において掲げられていた。平成19年度から化学物質を使用する学部においては、学部内の危険薬品所在箇所を記載したハザードマップを作成している。平成20年度からは、このハザードマップを建物ごとに掲示し、学生を含めた避難訓練に利用する学部もある。

3. 作業管理

作業内容や作業方法を把握し、安全衛生面において適切な作業が行えるようにする。

1) 学内の実態把握

研究室単位等の危険有害要因の把握を行う。

各研究室における危険有害要因は、学部、学科、講座、研究室の研究内容によって非常に異なっている。これら危険有害要因の特定は、基本的にはその場で就業する教職員がその危険性を認識し、対応を図ることを原則としているが、職場巡視の中で産業保健スタッフが客観的に危険有害要因を把握し、改善を図ることにもなる。各事業場により異なるが、衛生管理者、安全管理者、産業医、安全衛生担当者等の産業保健スタッフが同行し、巡視を行っている。

2) 実態に即した効果的な職場巡視の計画・実施

実態把握を元にした職場巡視の実施。

職場巡視は、各事業場において、定期的実施されている。学生と教職員が修学・就業する場である大学は、極めて広大な敷地であり、企業や工場における作業工程と異なり危険有害要因が一元管理されているわけではなく、各研究室の実験における作業管理には限界がある。また、危険有害要因と接点がある作業中（実験や研究中）にまさに巡視を計画することは現実的ではなく、産業保健スタッフによる巡視のみでは限界がある。そのため講座や研究室単位による自主的な作業管理が求められ、その中で産業保健スタッフは適切な作業管理のための助言を求められた場合に専門的な立場で問題解決に当たることが期待される。

3) 日常の自主的管理の支援

研究室単位等の自主的管理が促進するようチェックリストの作成と運用を行う。ヒヤリハットに関する情報の集約を行う。

職場巡視用のチェックリストは、各研究室の自主的な管理を促進させる点でも活用されることを期待している。ただし、特に理系の研究室では、使用している化学物質が非常に多岐にわたっていることもあり、チェックリストの作成事態が容易でなく、使用する化学物質に精通した各研究室の教員による安全衛生管理に委ねられているのが現実である。

ヒヤリハットは、ケガや事故を引き起こしそうになって、ヒヤリとしたり、ハットとしたりした情報を共有し、同様のことを繰り返さないようにする安全衛生活動の一つである。安全衛生委員会で情報を共有し、重大災害を引き起こさないよう周知を行っている。ヒヤリハットの投書に基づき、巡視、委員会における報告・審議を行うことで改善を図った事例もあり、一定の成果を挙げている。

4) 産業保健スタッフによる研究室の支援

産業保健スタッフは、職場巡視等を通じて、研究室等の自主的な作業管理が促進されるように支援する。

職場巡視を通じて発見された問題箇所の改善について、巡視の際に検討も合わせて行っている。巡視によって顕在化した問題点の検討を行うことは、危険有害要因を認知につながり、研究室が自主的な管理を展開して行く上で、教育的な効果があるものと考えられる。したがって巡視の積み重ねは、重大災害の防止に効果があるものと考えられる。

4. 健康管理

1) 過重労働による健康障害防止対策

I. 健康管理の項目で述べた。

2) 喫煙対策

信州大学は平成28年4月より敷地内全面禁煙となった。構内の禁煙は順守されており、逸脱した喫煙行為は認めていない。しかし、いずれのキャンパスでも、条例で禁止されているにもかかわらず、門周囲など敷地境界におけるポイ捨てが散見され、その対策が現在課題となっている。松本地区では、令和元年7月1日に松本市受動喫煙防止に関する条例が施行され、これまでの吸い殻のポイ捨てだけでなく、歩きタバコ等も禁止された。松本市にも働きかけ、喫煙者の多い女鳥羽川河川敷には市により喫煙禁止の掲示が設置された。

3) ストレスチェック制度

労働安全衛生法の改正に伴い、平成28年度よりストレスチェック制度が義務化された。本学においては、本年度から外注業者を変更しすべて（回答と結果の提供）オンラインで実施した。産業医間で集団分析結果を共有し、職場での業務改善に活かす活動を行った。

令和3年度 信州大学ストレスチェック実施報告

1. 実施期間：令和3年10月1日～10月22日

2. 実施者：総合健康安全センター長

3. 事業場別実施状況

事業場名	実施対象者数 (在籍労働者数)	検査を受けた 労働者数	面接指導を受けた 労働者数
松本キャンパス	1,320	808	0
松本附属学校園	71	60	0
医学部附属病院	2,032	1,339	0
長野（教育）キャンパス	170	129	0
長野附属学校	109	90	0
長野（工学）キャンパス	432	263	0
伊那キャンパス	191	134	0
上田キャンパス	279	181	0
合計	4,604	3,004	

※実施対象者数は、令和3年8月1日現在でACSU業務IDを持つ教職員数。但し、アルバ

イト雇用職員，非常勤講師及び人事データ上就業場所の記載ない非常勤職員（特別招へい教授等）を除く。

5. 安全衛生教育

安全衛生管理体制，作業環境管理，作業管理，健康管理について正しい知識を習得する。従来講習会を開催していたが，本年度はCOVID-19対応に各所多忙であり中止した。

2021年度 学生定期健康診断の受診者数・受診率

共通教育

	対象者	身体計測	血圧測定	内科診察	胸部X-P	尿検査
人文学部	157 人	157 人 (100.0 %)	157 人 (100.0 %)	157 人 (100.0 %)	157 人 (100.0 %)	132 人 (84.1 %)
経法学部	181 人	181 人 (100.0 %)	181 人 (100.0 %)	181 人 (100.0 %)	181 人 (100.0 %)	177 人 (97.8 %)
理学部	201 人	201 人 (100.0 %)	201 人 (100.0 %)	201 人 (100.0 %)	201 人 (100.0 %)	189 人 (94.0 %)
医学部	265 人	265 人 (100.0 %)	265 人 (100.0 %)	265 人 (100.0 %)	265 人 (100.0 %)	254 人 (95.8 %)
教育学部	247 人	247 人 (100.0 %)	247 人 (100.0 %)	247 人 (100.0 %)	247 人 (100.0 %)	240 人 (97.2 %)
工学部	493 人	493 人 (100.0 %)	493 人 (100.0 %)	493 人 (100.0 %)	493 人 (100.0 %)	467 人 (94.7 %)
農学部	176 人	176 人 (100.0 %)	176 人 (100.0 %)	176 人 (100.0 %)	176 人 (100.0 %)	172 人 (97.7 %)
繊維学部	289 人	289 人 (100.0 %)	289 人 (100.0 %)	289 人 (100.0 %)	289 人 (100.0 %)	268 人 (92.7 %)
計	2009 人	2009 人 (100.0 %)	2009 人 (100.0 %)	2009 人 (100.0 %)	2009 人 (100.0 %)	1899 人 (94.5 %)

対象者数は 5月1日現在

2021年度 学生定期健康診断の受診者数・受診率

人文学部

	対象者	身体計測	血圧測定	内科診察	胸部X-P	尿検査
2年生	151人	126人 (83.4%)	126人 (83.4%)	126人 (83.4%)	96人 (63.6%)	58人 (38.4%)
3年生	158人	119人 (75.3%)	119人 (75.3%)	119人 (75.3%)	73人 (46.2%)	73人 (46.2%)
4年生	209人	132人 (63.2%)	132人 (63.2%)	131人 (62.7%)	131人 (62.7%)	114人 (54.5%)
計	518人	377人 (72.8%)	377人 (72.8%)	376人 (72.6%)	300人 (57.9%)	245人 (47.3%)

経法学部

	対象者	身体計測	血圧測定	内科診察	胸部X-P	尿検査
2年生	184人	175人 (95.1%)	175人 (95.1%)	175人 (95.1%)	141人 (76.6%)	63人 (34.2%)
3年生	186人	157人 (84.4%)	157人 (84.4%)	157人 (84.4%)	107人 (57.5%)	127人 (68.3%)
4年生	231人	152人 (65.8%)	152人 (65.8%)	151人 (65.4%)	152人 (65.8%)	138人 (59.7%)
計	601人	484人 (80.5%)	484人 (80.5%)	483人 (80.4%)	400人 (66.6%)	328人 (54.6%)

対象者数は 5月1日現在

学年は入学年度

5年生以上は4年生に含む

2021年度 学生定期健康診断の受診者数・受診率

理学部

	対象者	身体計測	血圧測定	内科診察	胸部X-P	尿検査
2年生	203 人	170 人 (83.7 %)	170 人 (83.7 %)	170 人 (83.7 %)	130 人 (64.0 %)	105 人 (51.7 %)
3年生	199 人	152 人 (76.4 %)	152 人 (76.4 %)	152 人 (76.4 %)	77 人 (38.7 %)	120 人 (60.3 %)
4年生	256 人	194 人 (75.8 %)	194 人 (75.8 %)	194 人 (75.8 %)	192 人 (75.0 %)	170 人 (66.4 %)
計	658 人	516 人 (78.4 %)	516 人 (78.4 %)	516 人 (78.4 %)	399 人 (60.6 %)	395 人 (60.0 %)

教育学部

	対象者	身体計測	血圧測定	内科診察	胸部X-P	尿検査
2年生	242 人	242 人 (100.0 %)	242 人 (100.0 %)	242 人 (100.0 %)	242 人 (100.0 %)	241 人 (99.6 %)
3年生	242 人	242 人 (100.0 %)	242 人 (100.0 %)	242 人 (100.0 %)	242 人 (100.0 %)	240 人 (99.2 %)
4年生	269 人	262 人 (97.4 %)	262 人 (97.4 %)	262 人 (97.4 %)	262 人 (97.4 %)	258 人 (95.9 %)
計	753 人	746 人 (99.1 %)	746 人 (99.1 %)	746 人 (99.1 %)	746 人 (99.1 %)	739 人 (98.1 %)

対象者数は 5月1日現在

学年は入学年度

5年生以上は4年生に含む

2021年度 学生定期健康診断の受診者数・受診率

工学部

	対象者	身体計測	血圧測定	内科診察	胸部X-P	尿検査
2年生	494 人	478 人 (96.8 %)	477 人 (96.6 %)	478 人 (96.8 %)	273 人 (55.3 %)	468 人 (94.7 %)
3年生	521 人	500 人 (96.0 %)	500 人 (96.0 %)	500 人 (96.0 %)	381 人 (73.1 %)	488 人 (93.7 %)
4年生	606 人	540 人 (89.1 %)	540 人 (89.1 %)	540 人 (89.1 %)	532 人 (87.8 %)	530 人 (87.5 %)
計	1621 人	1518 人 (93.6 %)	1517 人 (93.6 %)	1518 人 (93.6 %)	1186 人 (73.2 %)	1486 人 (91.7 %)

農学部

	対象者	身体計測	血圧測定	内科診察	胸部X-P	尿検査
2年生	175 人	162 人 (92.6 %)	162 人 (92.6 %)	162 人 (92.6 %)	73 人 (41.7 %)	137 人 (78.3 %)
3年生	174 人	150 人 (86.2 %)	150 人 (86.2 %)	150 人 (86.2 %)	57 人 (32.8 %)	139 人 (79.9 %)
4年生	185 人	168 人 (90.8 %)	168 人 (90.8 %)	168 人 (90.8 %)	157 人 (84.9 %)	154 人 (83.2 %)
計	534 人	480 人 (89.9 %)	480 人 (89.9 %)	480 人 (89.9 %)	287 人 (53.7 %)	430 人 (80.5 %)

対象者数は 5月1日現在

学年は入学年度

5年生以上は4年生に含む

2021年度 学生定期健康診断の受診者数・受診率

繊維学部

	対象者	身体計測	血圧測定	内科診察	胸部X-P	尿検査
2年生	299 人	282 人 (94.3%)	282 人 (94.3%)	276 人 (92.3%)	123 人 (41.1%)	275 人 (92.0%)
3年生	295 人	283 人 (95.9%)	283 人 (95.9%)	279 人 (94.6%)	40 人 (13.6%)	280 人 (94.9%)
4年生	344 人	309 人 (89.8%)	310 人 (90.1%)	301 人 (87.5%)	284 人 (82.6%)	306 人 (89.0%)
計	938 人	874 人 (93.2%)	875 人 (93.3%)	856 人 (91.3%)	447 人 (47.7%)	861 人 (91.8%)

医学部

	対象者	身体計測	血圧測定	内科診察	胸部X-P	尿検査
2年生	263 人	263 人 (100.0%)	263 人 (100.0%)	263 人 (100.0%)	263 人 (100.0%)	216 人 (82.1%)
3年生	259 人	258 人 (99.6%)	258 人 (99.6%)	258 人 (99.6%)	258 人 (99.6%)	235 人 (90.7%)
4年生	274 人	267 人 (97.4%)	267 人 (97.4%)	267 人 (97.4%)	267 人 (97.4%)	250 人 (91.2%)
5年生	119 人	118 人 (99.2%)	118 人 (99.2%)	118 人 (99.2%)	118 人 (99.2%)	105 人 (88.2%)
6年生	161 人	158 人 (98.1%)	158 人 (98.1%)	158 人 (98.1%)	158 人 (98.1%)	149 人 (92.5%)
計	1076 人	1064 人 (98.9%)	1064 人 (98.9%)	1064 人 (98.9%)	1064 人 (98.9%)	956 人 (88.8%)

対象者数は 5月1日現在

学年は入学年度

保健学科の5年生以上は4年生に含む

医学科の7年生以上は6年生に含む

2021年度 学生定期健康診断の受診者数・受診率

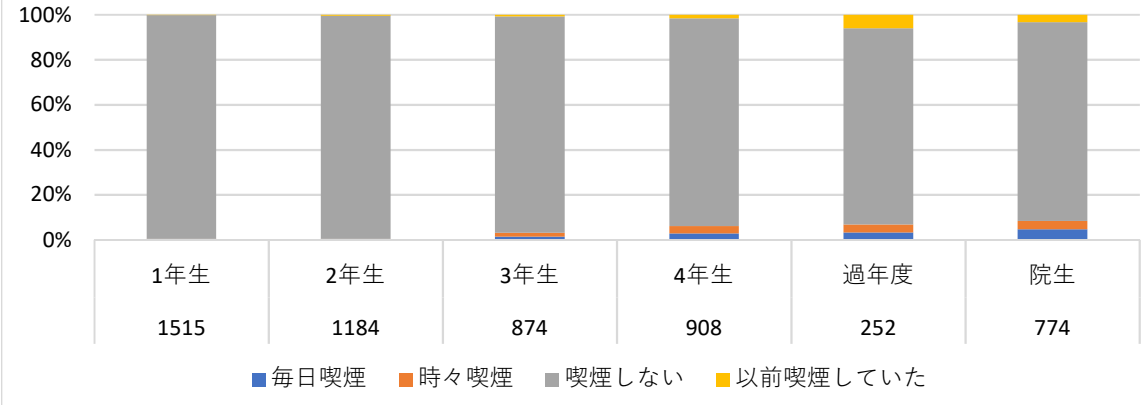
大学院

		対象者	身体計測	血圧測定	内科診察	胸部X-P	尿検査
人文科学研究科		0 人	0 人 (0 %)	0 人 (0 %)	0 人 (0 %)	0 人 (0 %)	0 人 (0 %)
教育学研究科		34 人	34 人 (100.0 %)	34 人 (100.0 %)	34 人 (100.0 %)	34 人 (100.0 %)	33 人 (97.1 %)
経済・社会政策科学研究科		2 人	0 人 (0 %)	0 人 (0 %)	0 人 (0 %)	0 人 (0 %)	0 人 (0 %)
医学系研究科		35 人	33 人 (94.3 %)	33 人 (94.3 %)	33 人 (94.3 %)	33 人 (94.3 %)	27 人 (77.1 %)
総合理工学研究科	理学	146 人	123 人 (84.2 %)	123 人 (84.2 %)	123 人 (84.2 %)	113 人 (77.4 %)	108 人 (74.0 %)
	工学	605 人	563 人 (93.1 %)	563 人 (93.1 %)	563 人 (93.1 %)	561 人 (92.7 %)	557 人 (92.1 %)
	繊維学	401 人	349 人 (87.0 %)	349 人 (87.0 %)	347 人 (86.5 %)	184 人 (45.9 %)	348 人 (86.8 %)
	農学	125 人	115 人 (92.0 %)	115 人 (92.0 %)	115 人 (92.0 %)	114 人 (91.2 %)	109 人 (87.2 %)
	生命医工学	92 人	90 人 (97.8 %)	90 人 (97.8 %)	89 人 (96.7 %)	67 人 (72.8 %)	88 人 (95.7 %)
総合工学系研究科		2 人	2 人 (100.0 %)	2 人 (100.0 %)	2 人 (100.0 %)	1 人 (50.0 %)	2 人 (100.0 %)
総合医理工学系研究科		127 人	106 人 (83.5 %)	106 人 (83.5 %)	106 人 (83.5 %)	86 人 (67.7 %)	101 人 (79.5 %)
計		1569 人	1449 人 (92.4 %)	1449 人 (92.4 %)	1446 人 (92.2 %)	1226 人 (78.1 %)	1404 人 (89.5 %)

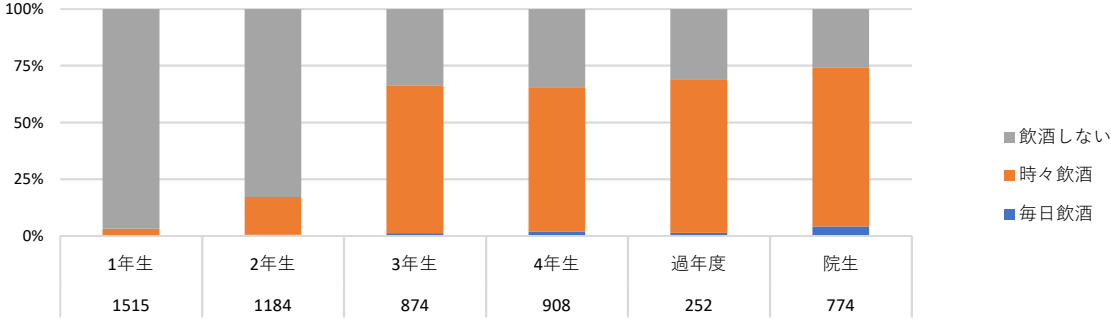
対象者数は 5月1日現在

生活習慣

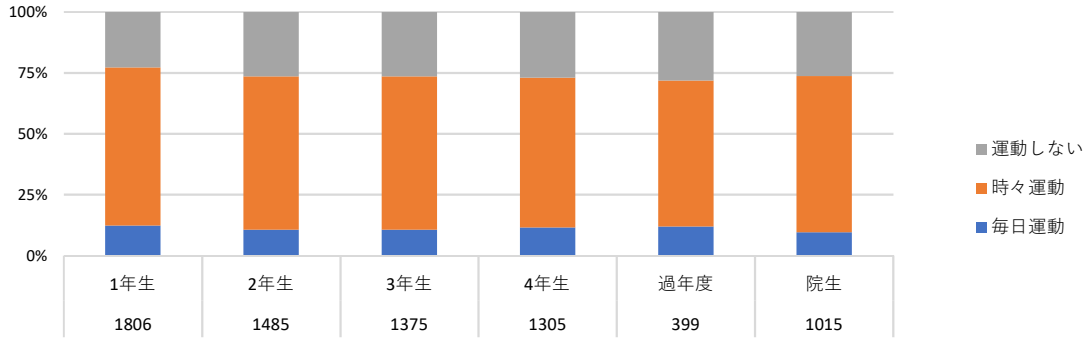
R3年度 喫煙(全学部)



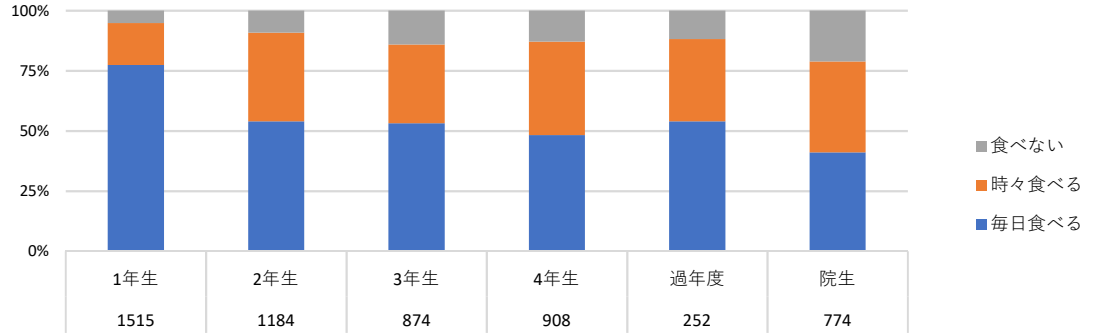
R3年度 飲酒 (全学部)



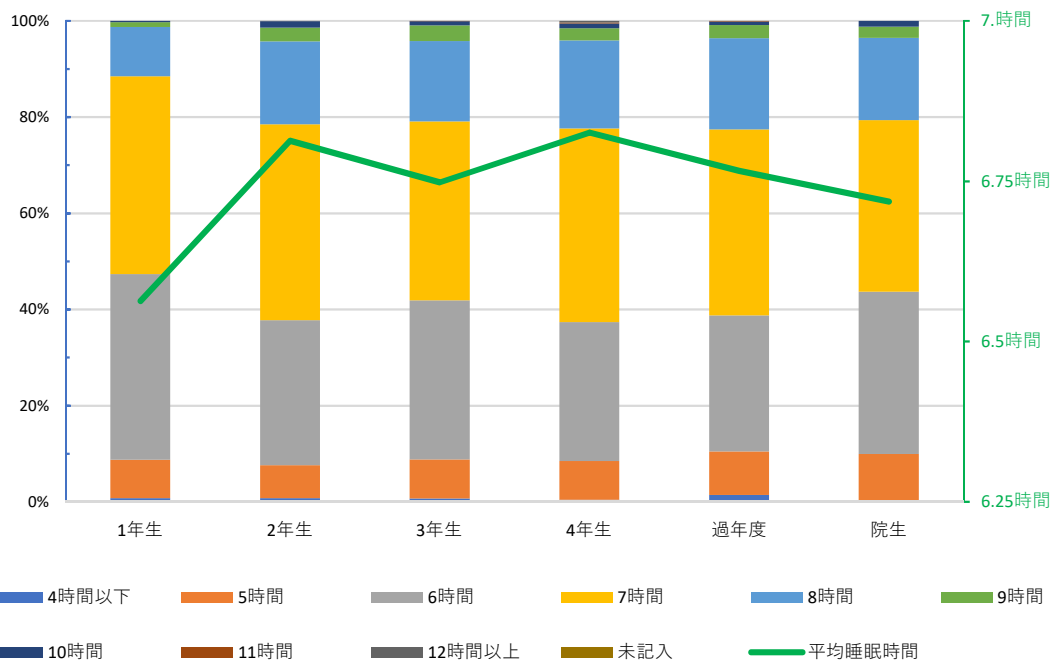
R3年度 運動 (全学部)



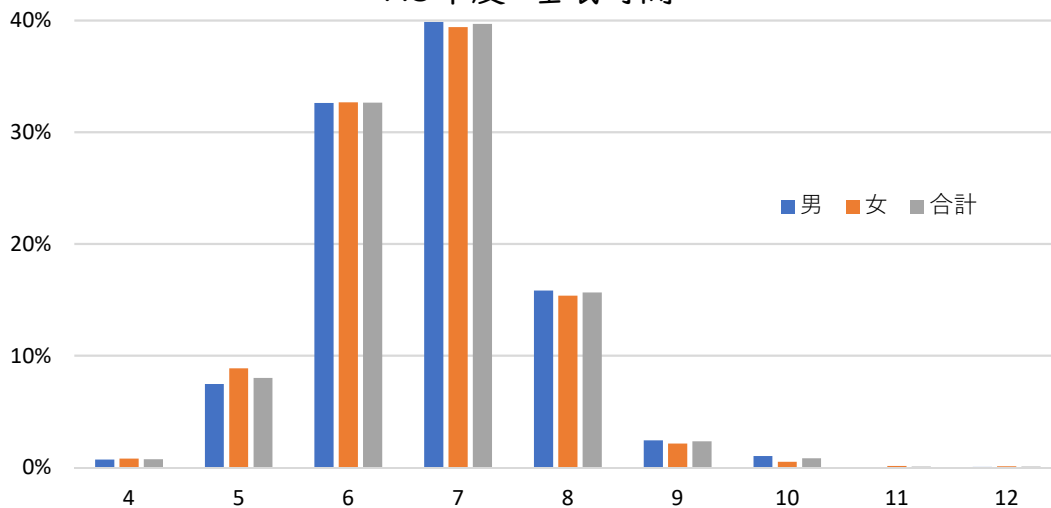
R3年度 食事 (全学部)



R3年度 睡眠時間と睡眠時間（全学部）

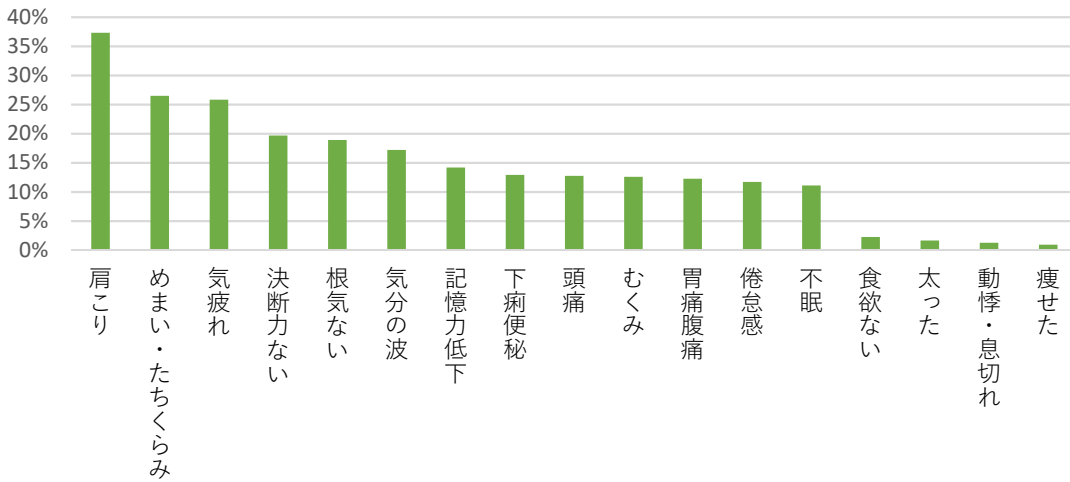


R3年度 睡眠時間

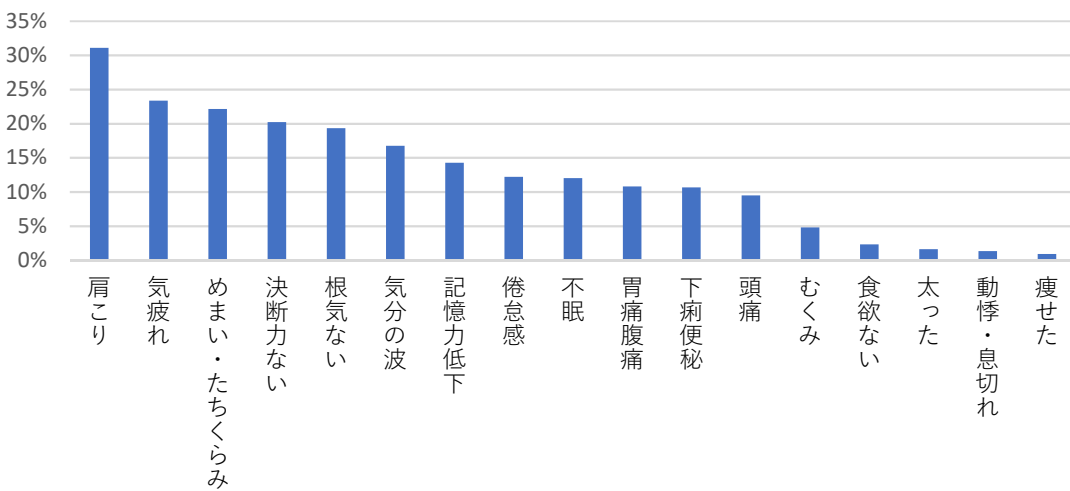


自覚症状

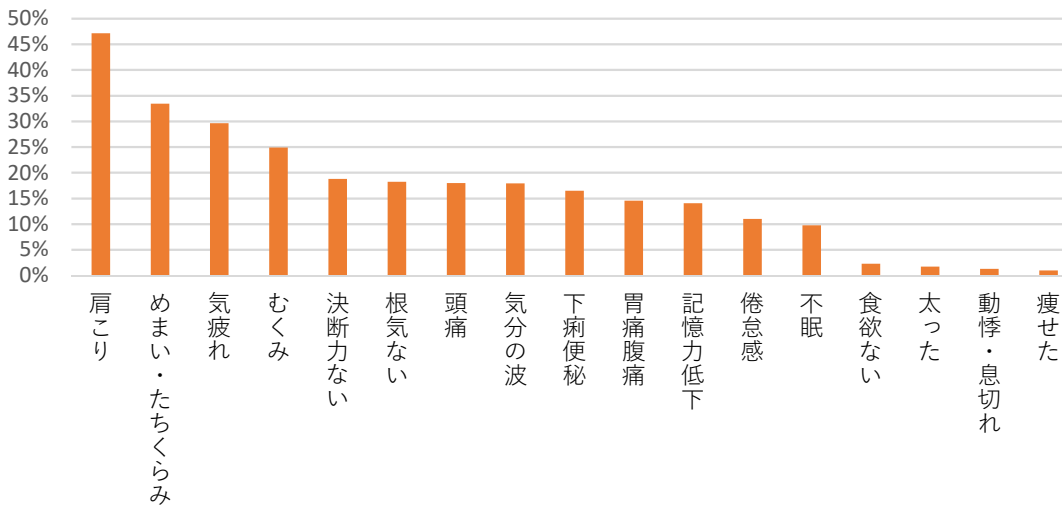
全体 n=5507



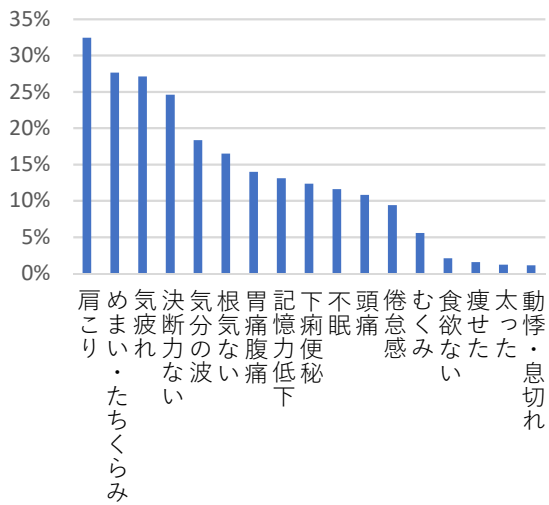
男子学生 n=3367



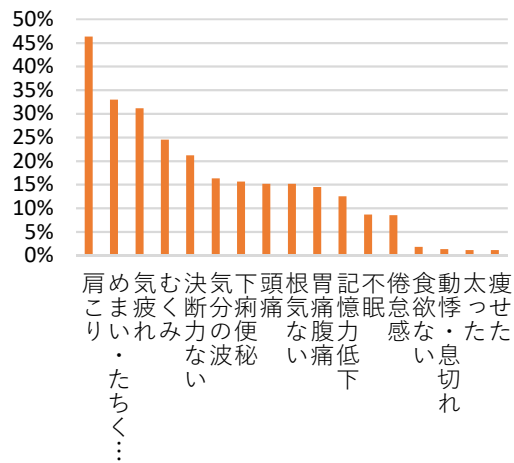
女子学生 n=2140



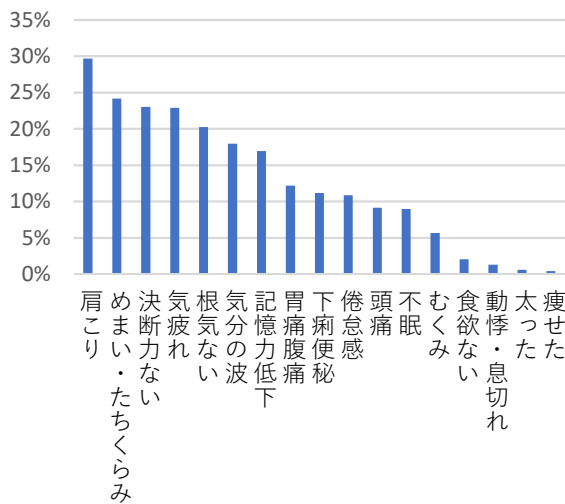
1年男子 n = 915



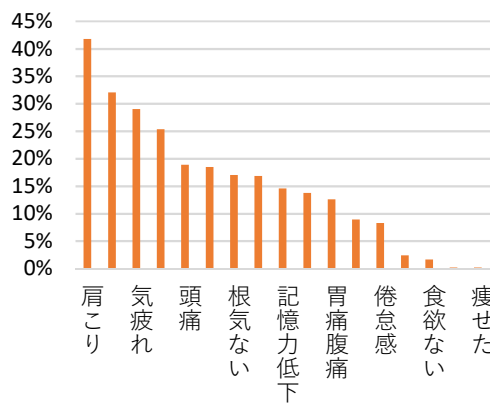
1年女子 n = 600



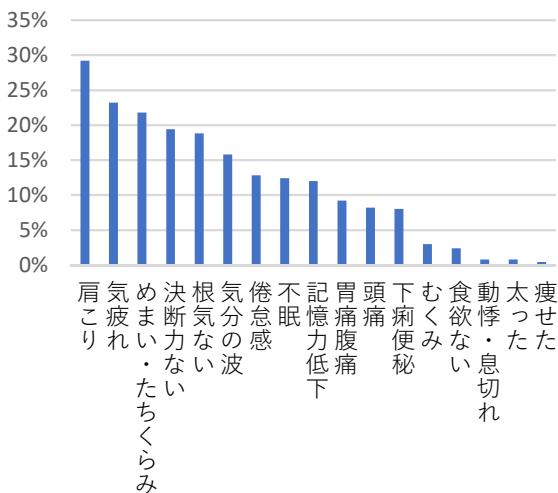
2年男子 n = 691



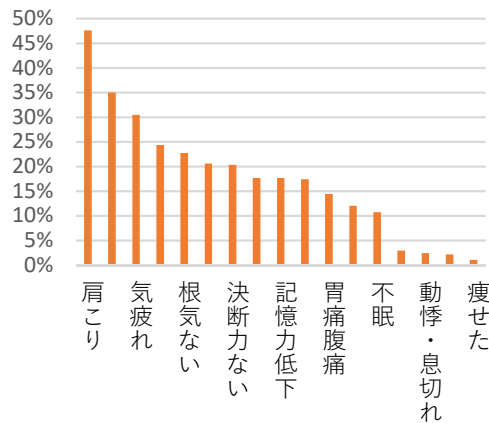
2年女子 n = 493



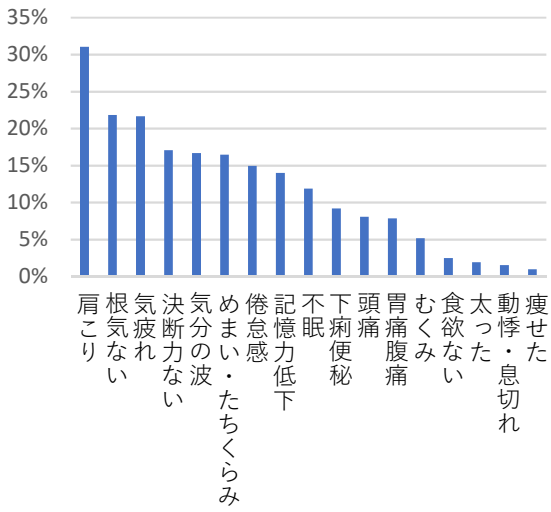
3年男子 n = 500



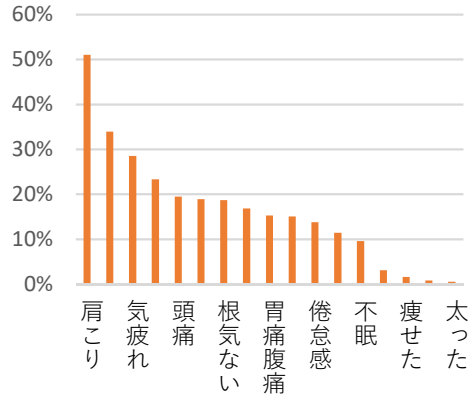
3年女子 n = 374



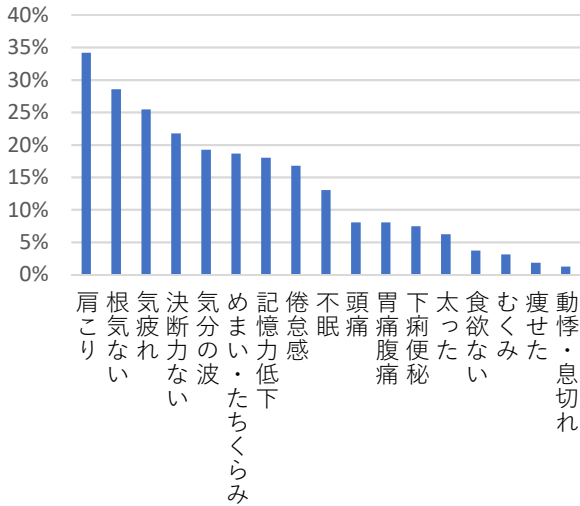
4年男子 n=522



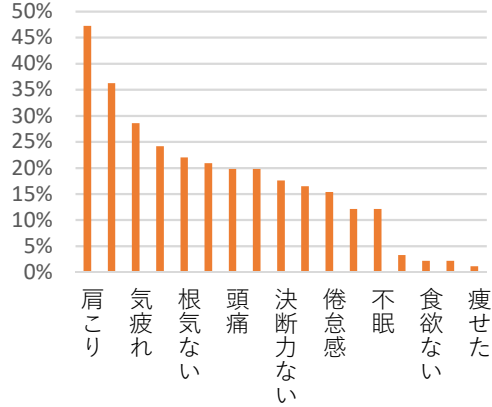
4年女子 n=386



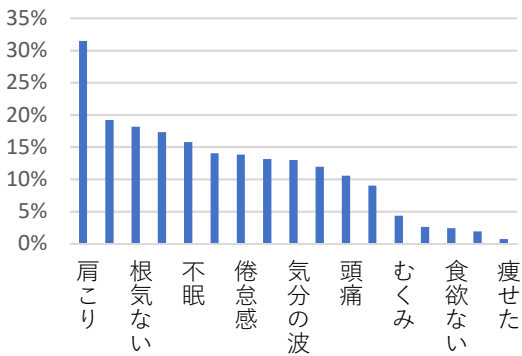
5年以上男子 n=161



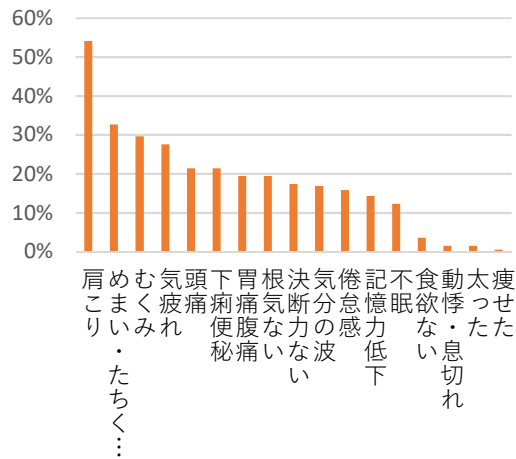
5年以上女子 n=91



院生男子 n=578



院生女子 n=196



令和3年度 定期健康診断 精検結果

	松本		教育		工学		農学		繊維		大学院		計			
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%		
対象者		4862		753		1621		534		938		1569		10277		
内科	受診者	4448	91.5	746	99.1	1518	93.6	480	89.9	856	91.3	1446	92.2	9494	92.4	
	要精検者	22	0.5	6	0.8	10	0.7	1	0.2	16	1.9	4	0.3	59	0.6	
	精検受診者	20	0.4	4	0.5	6	0.4			6	0.7	2	0.1	38	0.4	
	結果	健康	14	0.3	2	0.3	5	0.3			3	0.4			24	0.3
		要観察	5	0.1	2	0.3	1	0.1			2	0.2	1	0.1	11	0.1
要医療		1								1	0.1	1	0.1	3		
X-P	受診者	4172	85.8	746	99.1	1186	73.2	287	53.7	447	47.7	1226	78.1	8064	78.5	
	要精検者	9	0.2			1	0.1							10	0.1	
	精検受診者	9	0.2			1	0.1							10	0.1	
	結果	健康	8	0.2											8	0.1
		要観察	1				1	0.1							2	
要医療																
尿	受診者	3823	78.6	739	98.1	1486	91.7	430	80.5	861	91.8	1404	89.5	8743	85.1	
	要再検者	130	3.4	13	1.8	32	2.2	8	1.9	45	5.2	34	2.4	262	3.0	
	蛋白	91	2.4	1	0.1	11	0.7	1	0.2	16	1.9	11	0.8	131	1.5	
	糖	16	0.4	2	0.3	4	0.3			4	0.5	5	0.4	31	0.4	
	潜血	32	0.8	10	1.4	18	1.2	7	1.6	25	2.9	22	1.6	114	1.3	
	要精検者	1				3	0.2					1	0.1	5	0.1	
	精検受診者	120	3.1	13	1.8	22	1.5	5	1.2	35	4.1	29	2.1	224	2.6	
	蛋白	4	0.1												4	
	糖															
	潜血	6	0.2	1	0.1	3	0.2					1	0.1	11	0.1	
	結果	健康	104	2.7	10	1.4	18	1.2	5	1.2	35	4.1	24	1.7	196	2.2
		要観察	9	0.2	1	0.1	4	0.3					3	0.2	17	0.2
		要医療	7	0.2	2	0.3							2	0.1	11	0.1
血压	受診者	4450	91.5	746	99.1	1517	93.6	480	89.9	875	93.3	1449	92.4	9517	92.6	
	要再検者	449	10.1	34	4.6	134	8.8	36	7.5	42	4.8	115	7.9	810	8.5	
	低血压															
	境界									3	0.3			3		
	高血压	449	10.1	33	4.4	134	8.8	36	7.5	39	4.5	115	7.9	806	8.5	
	I度	397	8.9	27	3.6	93	6.1	31	6.5	27	3.1	85	5.9	660	6.9	
	II度	43	1.0	6	0.8	38	2.5	5	1.0	12	1.4	20	1.4	124	1.3	
	III度	9	0.2			3	0.2					10	0.7	22	0.2	
	要精検者							7	1.5			1	0.1	8	0.1	
	精検受診者	401	9.0	28	3.8	100	6.6	6	1.3	17	1.9	72	5.0	624	6.6	
	低血压															
	境界	184	4.1	14	1.9	66	4.4	3	0.6	6	0.7	40	2.8	313	3.3	
	高血压	2		8	1.1							2	0.1	12	0.1	
	I度	2		7	0.9							2	0.1	11	0.1	
	II度			1	0.1									1		
	III度															
	結果	健康	398	8.9	17	2.3	100	6.6	5	1.0	16	1.8	68	4.7	604	6.3
		要観察			11	1.5			1	0.2	1	0.1	3	0.2	16	0.2
		要医療	3	0.1									1	0.1	4	

平成25～令和3年度 年度別留年率調

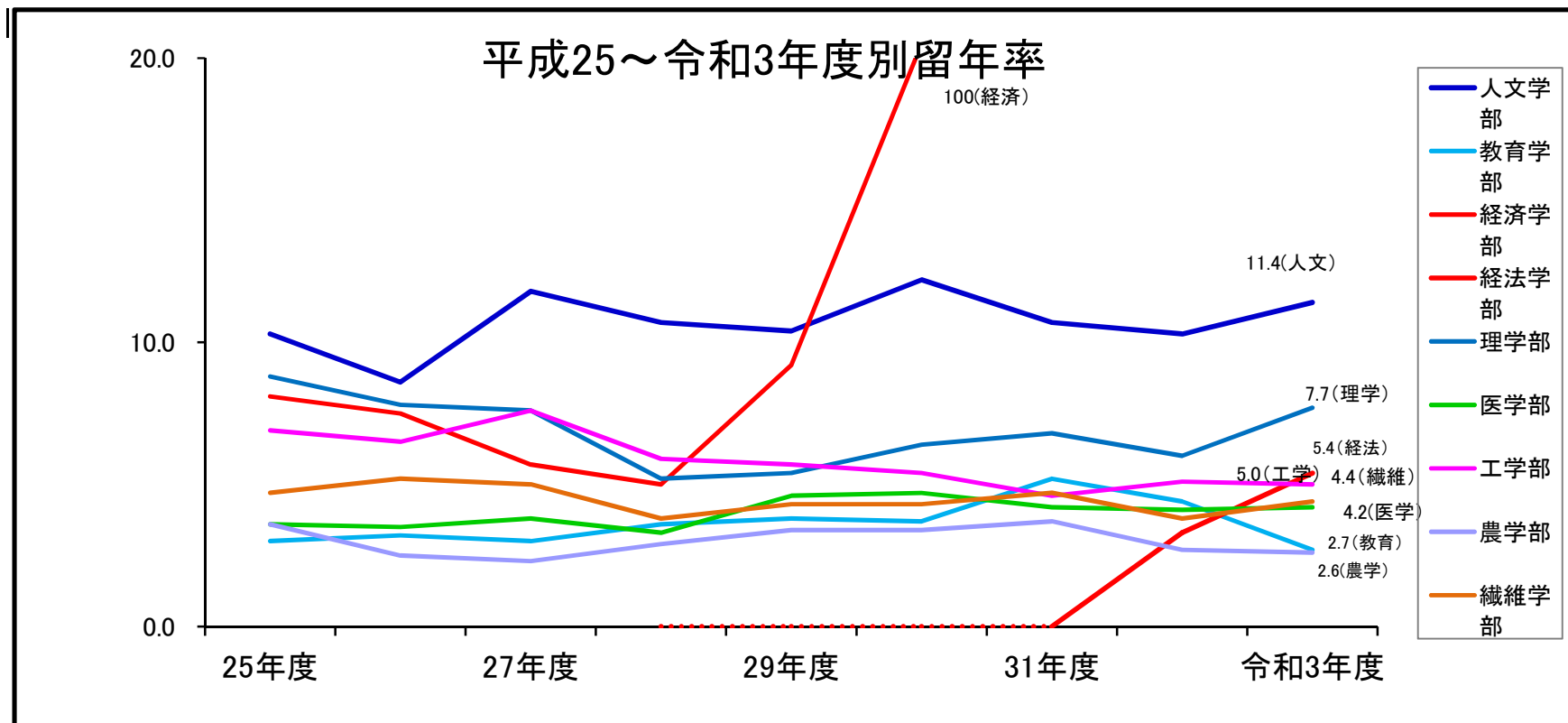
単位:%

(留年率=各年度の在学学生数に対する留年生数の割合)

区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	令和2年度	令和3年度
人文学部	10.3	8.6	11.8	10.7	10.4	12.2	10.7	10.3	11.4
教育学部	3.0	3.2	3.0	3.6	3.8	3.7	5.2	4.4	2.7
経済学部	8.1	7.5	5.7	5.0	9.2	20.5	100.0	100.0	100.0
経法学部								3.3	5.4
理学部	8.8	7.8	7.6	5.2	5.4	6.4	6.8	6.0	7.7
医学部	3.6	3.5	3.8	3.3	4.6	4.7	4.2	4.1	4.2
工学部	6.9	6.5	7.6	5.9	5.7	5.4	4.6	5.1	5.0
農学部	3.6	2.5	2.3	2.9	3.4	3.4	3.7	2.7	2.6
繊維学部	4.7	5.2	5.0	3.8	4.3	4.3	4.7	3.8	4.4
全体平均	5.9	5.5	5.8	4.9	5.2	5.5	5.5	5.0	5.2
文系平均	6.5	6.0	6.2	5.9	5.9	6.9	7.4	6.5	6.3
理系平均	6.2	5.8	6.2	4.8	5.0	5.0	4.9	4.6	5.0

※学部廃止によるもの

※理系は医学部を除く



令和2年度における入学年度別休学者調(その2 簡略版)

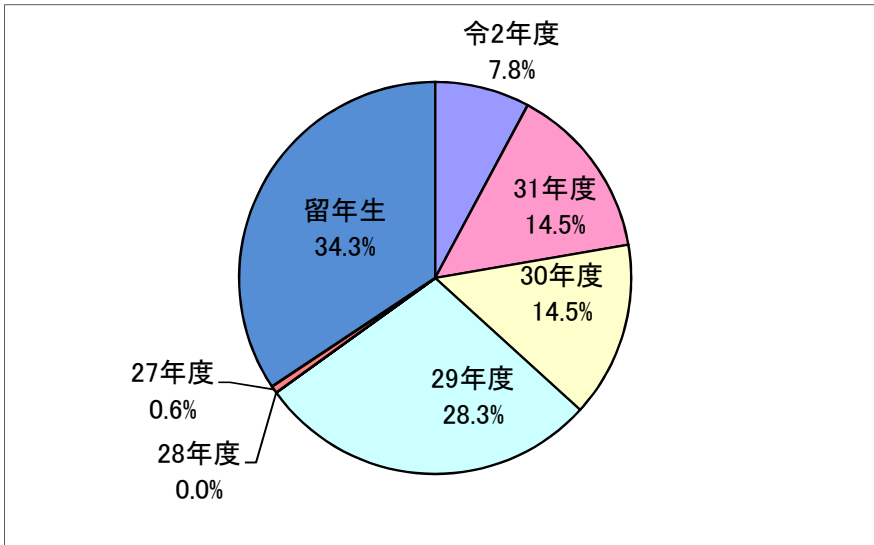
単位:人

学部/入学年度	令和2年度		31年度		30年度		29年度		28年度		27年度		留年生		合計	
人文学部	3		8		5		8		/	/	/	/	20		44	0
教育学部	0		0		3	1	3		/	/	/	/	8	1	14	2
経済学部									/	/	/	/	3		3	0
経法学部	0		1		4		8	1	/	/	/	/	1	1	14	2
理学部	1		5		2		6		/	/	/	/	5		19	0
医学部医学科	0		0		0		0		0		1		1		2	0
医学部保健学科	3		5		1		4		/	/	/	/	1		14	0
工学部	2		3		1		5		/	/	/	/	11		22	0
農学部	2		0		4		5		/	/	/	/	2		13	0
繊維学部	2		2		4		8		/	/	/	/	5		21	0
計	13	0	24	0	24	1	47	1	0	0	1	0	57	2	166	4

※ 各年度の右欄(太枠内)は、積極的理由群の「留学のため」で、内数を示す。

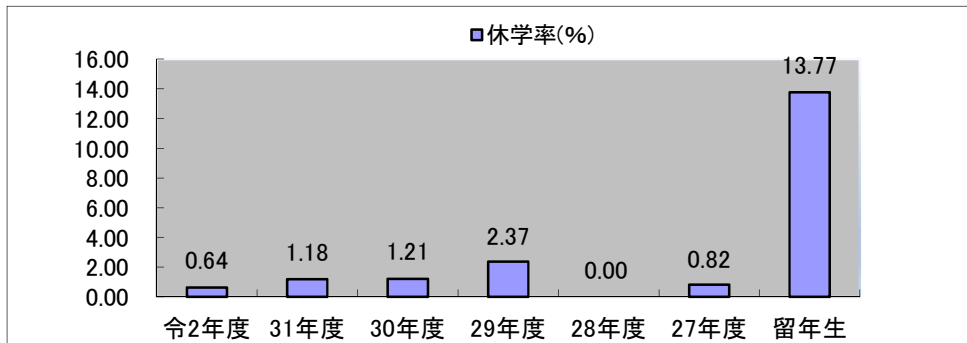
※ 編入生は編入先の年度に含めた

令和2年度の休学者166名の入学年度別割合調



各年度の在学者総数に占める休学者の割合

入学年度	令2年度	31年度	30年度	29年度	28年度	27年度	留年生	合計
休学者数	13	24	24	47	0	1	57	166
在学者数	2,039	2,042	1,986	1,979	136	122	414	8,718
休学率(%)	0.64	1.18	1.21	2.37	0.00	0.82	13.77	1.90

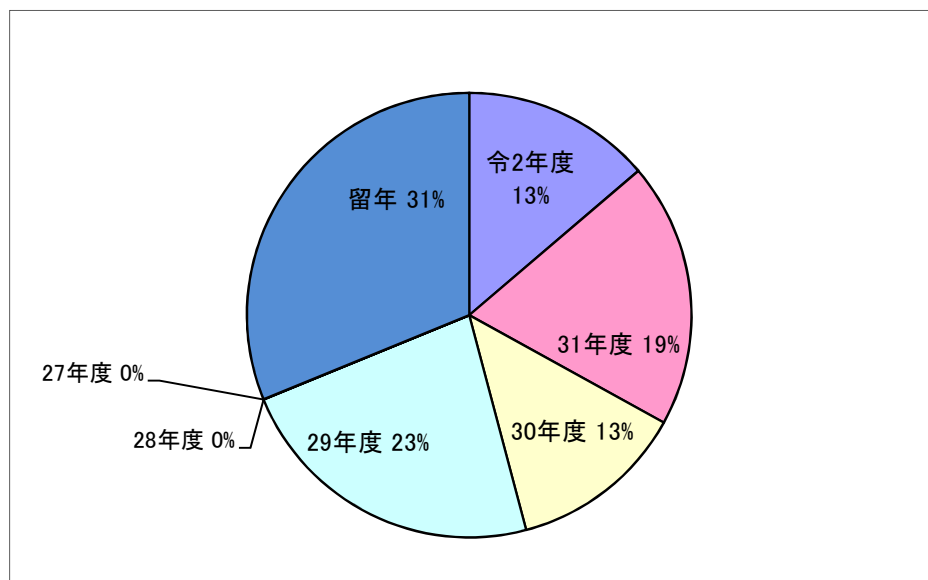


令和2年度における入学年度別退学者調

学部	令和2年度			31年度			30年度			29年度			28年度			27年度			留年生			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
人文学部	2		2	1	1	2	1	1	2	3	2	5	/	/	/	/	/	/	1	8	9	8	12	20
教育学部													/	/	/	/	/	/	3	2	5	3	2	5
経済学部													/	/	/	/	/	/	4	1	5	4	1	5
経法学部	1		1	1	1	2	2		2	1		1	/	/	/	/	/	/				5	1	6
理学部	5		5	6		6	3		3	3		3	/	/	/	/	/	/	2		2	19		19
医学部医学科													/	/	/	/	/	/	1		1	1		1
医学部保健学科	1	1	2	1	1	2		1	1	1	3	4	/	/	/	/	/	/		1	1	3	7	10
工学部	2	1	3	4		4	3		3	7		7	/	/	/	/	/	/	9		9	25	1	26
農学部										2	1	3	/	/	/	/	/	/	1		1	3	1	4
繊維学部	2		2	4	1	5	2	1	3	1	1	2	/	/	/	/	/	/	1		1	10	3	13
計	13	2	15	17	4	21	11	3	14	18	7	25							22	12	34	81	28	109

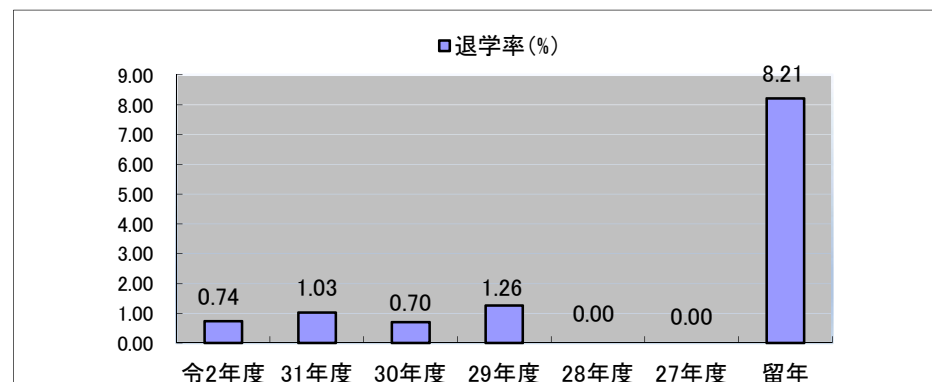
※ 編入生は編入先の年度に含めた

令和2年度の退学者109名の入学年度別割合調



各入学年度の在学者総数に占める退学者の割合

入学年度	令2年度	31年度	30年度	29年度	28年度	27年度	留年	合計
退学者数	15	21	14	25			34	109
在学者数	2,039	2,042	1,986	1,979	136	122	414	8,718
退学率(%)	0.74	1.03	0.70	1.26			8.21	1.25

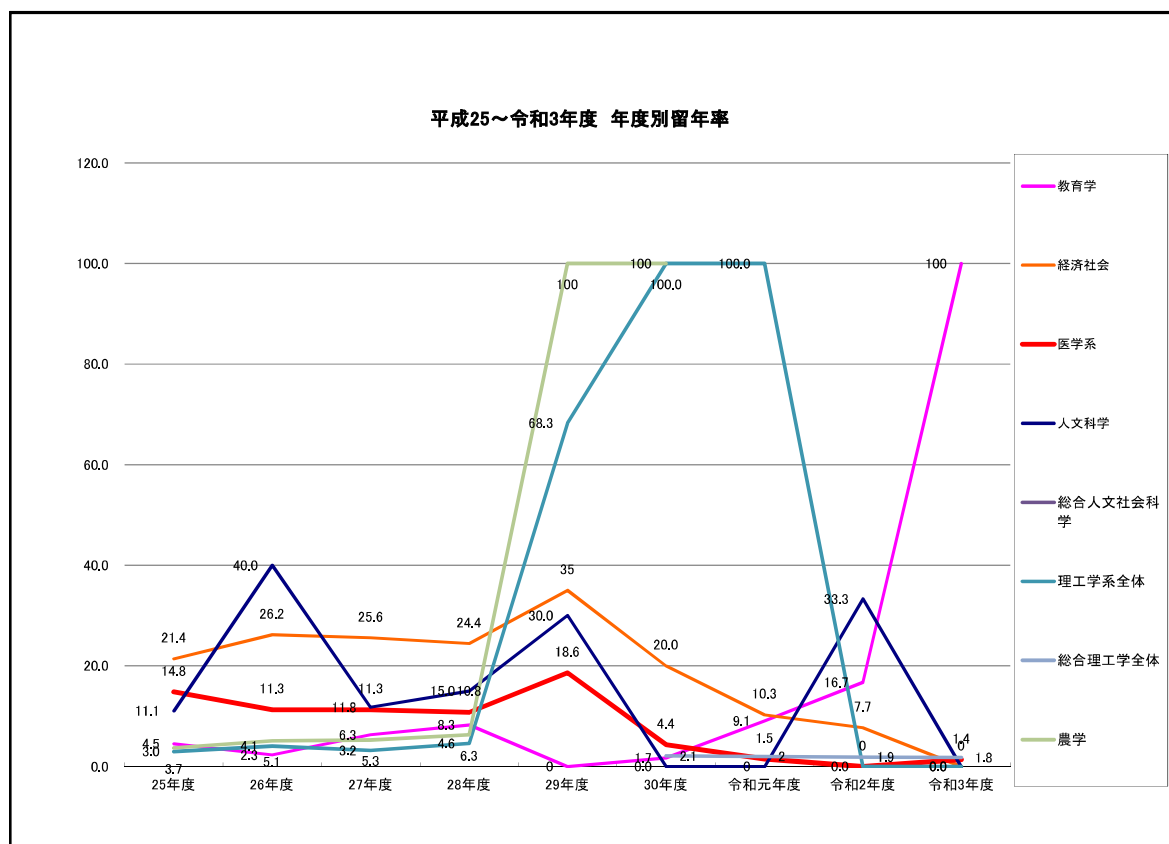


平成25～令和3年度 年度別留年率調<修士課程(博士前期)>

単位: % (留年率=各年度の在学学生数に対する留年生数の割合)

区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
人文科学	11.1	40.0	11.8	15.0	30.0	0.0	0.0	33.3	0.0
総合人文社会科学								0.0	0.0
教育学	4.5	2.3	6.3	8.3	0.0	1.7	9.1	16.7	100
経済社会	21.4	26.2	25.6	24.4	35	20.0	10.3	7.7	0.0
理工学系全体	3.0	4.1	3.2	4.6	68.3	100	100.0	0.0	0.0
理工学系(理学)	2.1	7.1	3.1	4.1	100				
理工学系(工学)	4.1	3.9	2.7	4.2	52.2	100			
理工学系(繊維)	2.0	3.4	3.8	5.2	86.7	100	100.0		
医学系	14.8	11.3	11.3	10.8	18.6	4.4	1.5	0	1.4
総合理工学全体						2.1	2	1.9	1.8
総合理工学(理学)						2.1	5.4	3	3.5
総合理工学(工学)						1.8	2.2	1.5	1.5
総合理工学(繊維)						2.5	1.1	2.2	1.4
総合理工学(農学)						1.8	0.0	1.8	2.3
総合理工学(生命医工)						2.5	2.7	3.7	1.1
農学	3.7	5.1	5.3	6.3	100	100.0			
全体平均	4.2	5.3	4.9	3.9	4.5	3.1	2.6	2.3	1.8
文系平均	10.1	12.1	12.9	14.9	17.9	8.4	8.7	9.4	2.9
理系平均	3.6	4.5	3.9	2.8	3.3	2.6	2.1	1.9	1.7

※「総合理工学研究科」は平成28年度より新設 ※「総合人文社会科学研究科」は令和2年度より新設

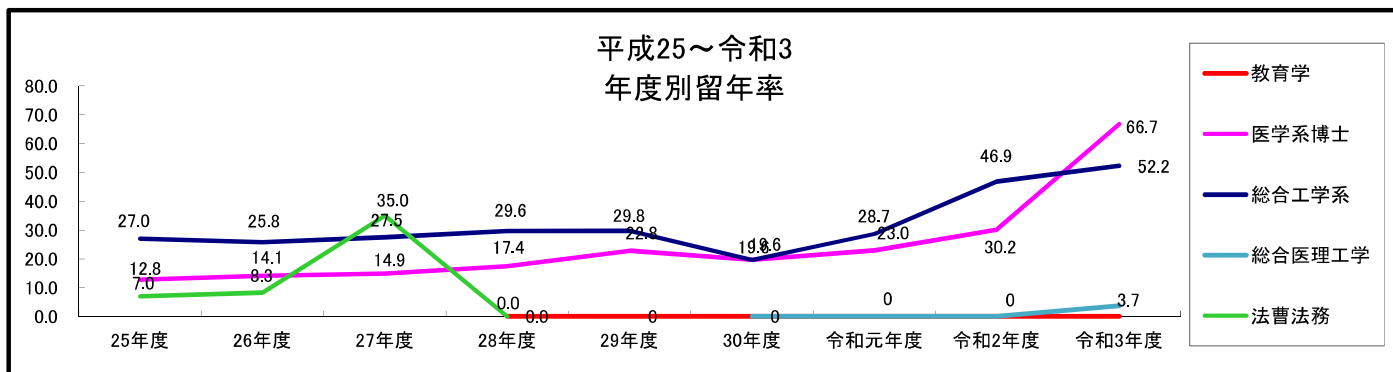


平成25～令和3年度 年度別留年率調<博士課程(博士後期)・専門職>

単位: %

(留年率=各年度の在学生数に対する留年生数の割合)

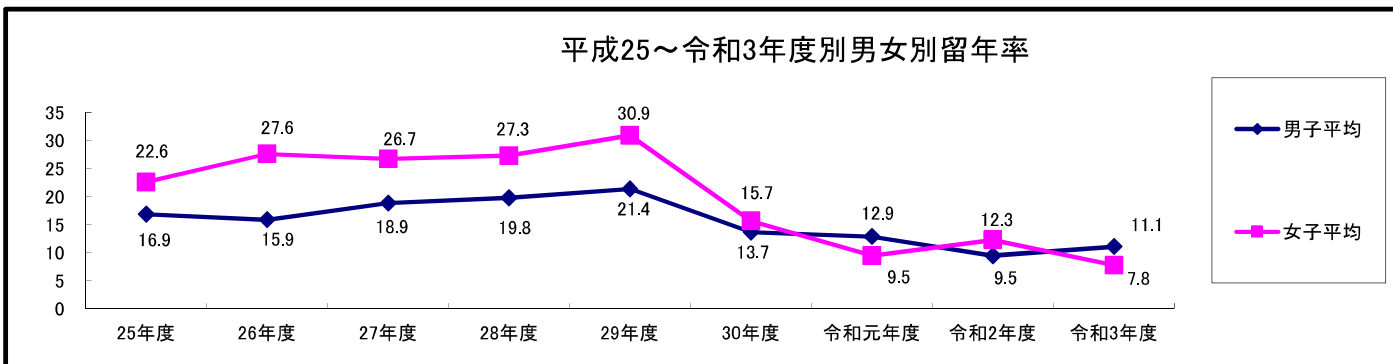
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
教育学				0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
医学系博士	12.8	14.1	14.9	17.4	22.8	19.6	23.0	30.2	66.7
総合工学系	27.0	25.8	27.5	29.6	29.8	19.6	28.7	46.9	52.2
総合医理工学						0.0	0.0	0.0	3.7
法曹法務	7.0	8.3	35.0	0.0					
全体平均	18.2	18.5	20.6	21.4	21.4	14.1	12.1	12.1	10.3



平成25度～令和3年度 年度別男女別留年率調<博士課程(博士後期)・専門職>

単位: %

区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
男子平均	16.9	15.9	18.9	19.8	21.4	13.7	12.9	9.5	11.1
女子平均	22.6	27.6	26.7	27.3	30.9	15.7	9.5	12.3	7.8



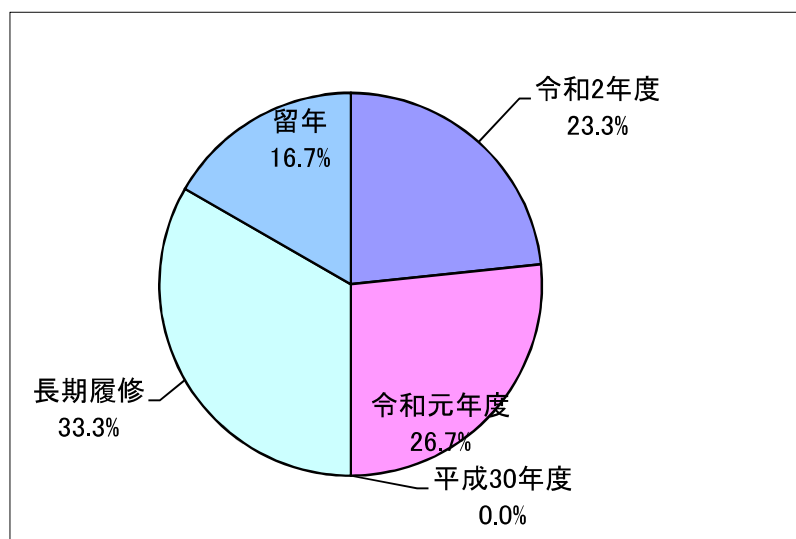
令和2年度における入学年度別休学者調<修士課程(博士前期)>(その2 簡略版)

単位:人

研究科/入学年度	令和2年度		令和元年度		平成30年度		長期履修生		留年生		合計	
人文科学	3						1				4	0
教育学									1		1	0
経済社会			1				4				5	0
医学系			1				5				6	0
総合理工学 理学			2								2	0
総合理工学 工学	1		2						2		5	0
総合理工学 繊維	1								1		2	0
総合理工学 農学	2		1								3	0
総合理工学 生命医工			1						1		2	0
計	7	0	8	0	0	0	10	0	5	0	30	0

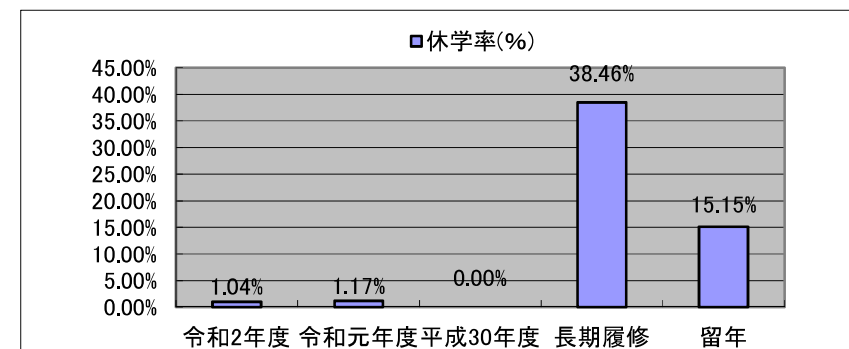
※ 各年度の右欄(太枠内)は、積極的理由群の「留学のため」で、内数を示す。

令和2年度の休学者30名の入学年度別割合調



各年度の在学者総数に占める休学者の割合

入学年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	長期履修	留年
休学者数	7	8	0	10	5
在学者数	671	683	22	26	33
休学率(%)	1.04%	1.17%	0.00%	38.46%	15.15%

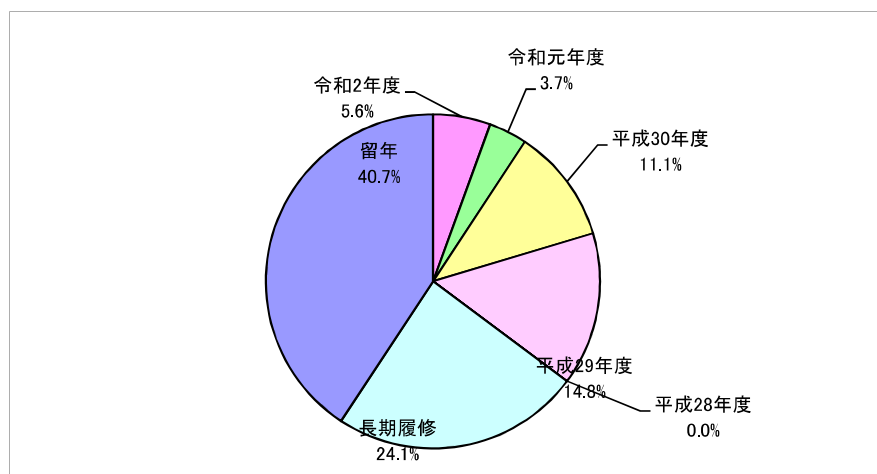


令和2年度における入学年度別休学者調<博士課程(博士後期)・専門職>(その2 簡略版)

単位:人

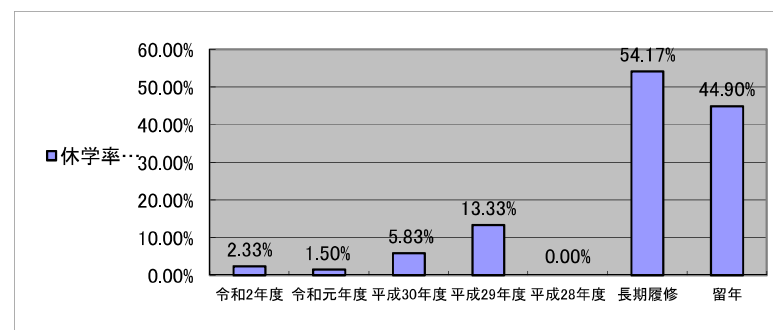
研究科/入学年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度	長期履修	留年生	合計
教育学研究科【専門職・2年制】								0
医学系(博士課程)【4年制】				6			15	21
医学系(博士後期課程)【3年制】						7	1	8
総合工学系 生命機能・ファイバー工学専攻【3年制】				2		1	1	4
総合工学系 システム開発工学専攻【3年制】						4	2	6
総合工学系 物質創成科学専攻【3年制】								0
総合工学系 山岳地域環境科学専攻【3年制】							3	3
総合工学系 生物・食料科学専攻【3年制】						1		1
総合医理工学研究科[医学系専攻](博士課程【4年制】)H30年度～	2		1					3
総合医理工学研究科[医学系専攻](博士課程【3年制】)H30年度～			1					1
総合医理工学研究科[総合理工学専攻](博士課程【3年制】)H30年度～	1	2	2					5
総合医理工学研究科[生命医工学専攻](博士課程【4年制】)H30年度～			1					1
総合医理工学研究科[生命医工学専攻](博士課程【3年制】)H30年度～			1					1
計	3	2	6	8	0	13	22	54

令和2年度の休学者54名の入学年度別割合調



各年度の在学者総数に占める休学者の割合

入学年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度	長期履修	留年	合計
休学者数	3	2	6	8	0	13	22	54
在学者数	129	133	103	60	2	24	49	500
休学率(%)	2.33%	1.50%	5.83%	13.33%	0.00%	54.17%	44.90%	10.80%



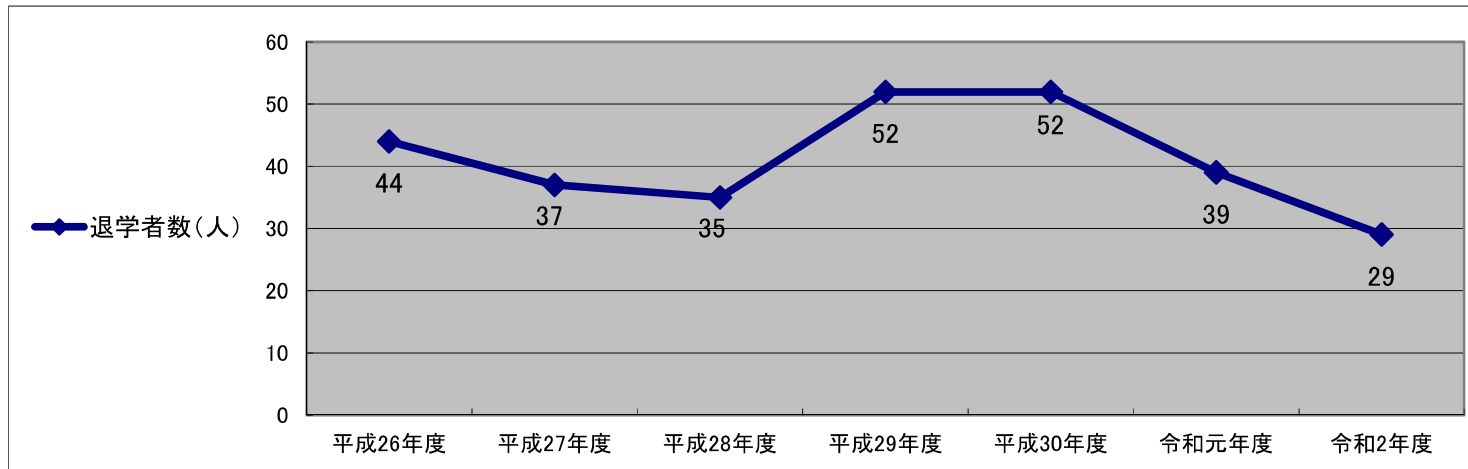
令和2年度における入学年度別退学者調<修士課程(博士前期)>

単位:人

研究科	入学年度			令和元年度			平成30年度 (10月入学生)			長期履修学生			留年生			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
人文科学			0			0	/	/	/			0			0	0	0	0
教育学			0			0	/	/	/			0			0	0	0	0
経済社会			0			0			0			0			0	0	0	0
医学系			0			0	/	/	/			0			0	0	0	0
総合理工学全体	8	1	9	10	2	12	0	0	0	0	0	0	8	0	8	26	3	29
総合理工学理学	1		1	1		1							2		2	4	0	4
総合理工学工学	5		5	6	1	7							2		2	13	1	14
総合理工学繊維	1		1	3	1	4							1		1	5	1	6
総合理工学農学	1	1	2			0							1		1	2	1	3
総合理工学生命医工			0			0							2		2	2	0	2
農学															0	0	0	0
計	8	1	9	10	2	12	0	0	0	0	0	0	8	0	8	26	3	29

平成26～令和2年度 退学者数の変遷<修士課程(博士前期)>

区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
退学者数(人)	44	37	35	52	52	39	29



令和2年度における入学年度別退学者調＜博士課程(博士後期)・専門職＞

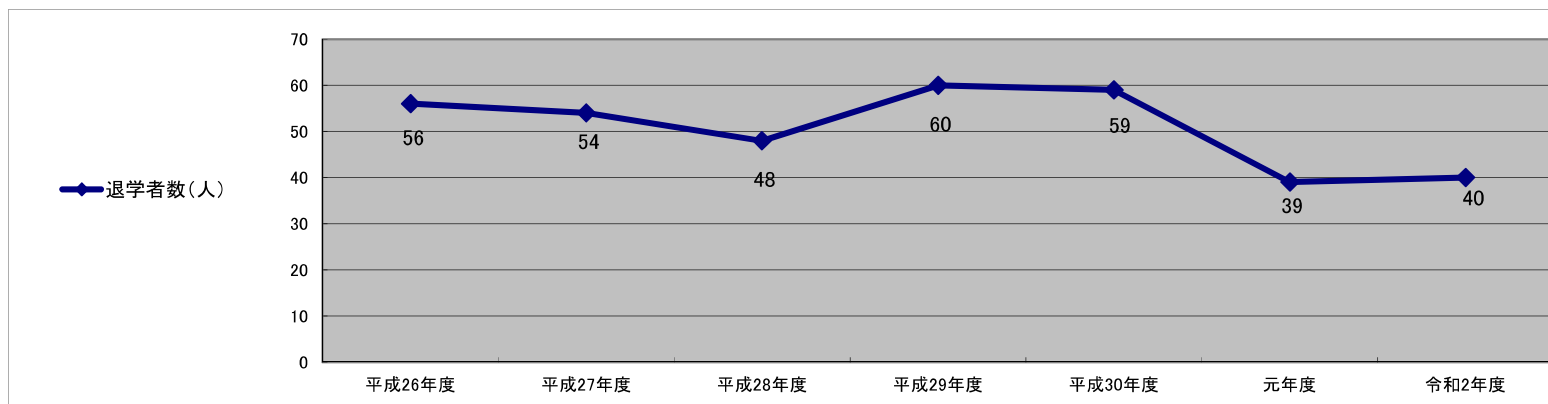
単位:人

研究科	入学年度			令和元年度			平成30年度			平成29年度 (3年制10月入学)			平成28年度 (4年制10月入学)			長期履修生			留年生			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
教育学研究科【専門職・2年制】			0			0												0			0	0	0	0
医学系(博士課程)【4年制】			0			0			0	12		12			0			0	7	3	10	19	3	22
医学系(博士後期課程)【3年制】			0			0			0			0			0	2		2			0	2	0	2
総合工学系 生命機能・ファイバー工学専攻【3年制】												0			0			0		1	1	0	1	1
総合工学系 システム開発工学専攻【3年制】												0			0	1		1			0	1	0	1
総合工学系 物質創成科学専攻【3年制】												0			0			0			0	0	0	0
総合工学系 山岳地域環境科学専攻【3年制】												0			0	1	1	2	2		2	3	1	4
総合工学系 生物・食料科学専攻【3年制】										2		2			0	1		1	1		1	4	0	4
総合医理工学研究科 医学系専攻【4年制】			0		1	1			0									0			0	0	1	1
総合医理工学研究科 医学系専攻【3年制】			0			0			0									0			0	0	0	0
総合医理工学研究科 総合理工学専攻【3年制】		1	1	1		1	1		1									0			0	2	1	3
総合医理工学研究科 生命医工学専攻【4年制】			0			0			0									0			0	0	0	0
総合医理工学研究科 生命医工学専攻【3年制】			0			0			0							2		2			0	2	0	2
計	0	1	1	1	1	2	1	0	1	14	0	14	0	0	0	7	1	8	10	4	14	33	7	40

※ H30年4月より医学系研究科と総合工学系研究科を「医学系専攻」、「総合理工学専攻」、「生命医工学専攻」の3専攻に統合再編「総合医理工学研究科」を設置

平成26～令和2年度 退学者数の変遷＜博士課程(博士後期)・専門職＞

区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	元年度	令和2年度
退学者数(人)	56	54	48	60	59	39	40



施設利用状況(学生)

*人数は延人数

業務内容		松本	教育	工学	農学	繊維	合計
医師	内科	68 0.9%	3 0.2%	4 0.2%	7 0.5%	7 0.4%	89 0.6%
	精神科	269 3.4%	0 0.0%	3 0.1%	3 0.2%	6 0.4%	281 1.9%
産業医	医療面談	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	産業医面談	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
校医	内科	9 0.1%	3 0.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	12 0.1%
	精神科	113 1.4%	0 0.0%	0 0.0%	6 0.4%	5 0.3%	124 0.8%
	外科	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	整形外科	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	耳鼻科	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	眼科	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	皮膚科	1 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.0%
	婦人科	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
他医への紹介		53 0.7%	17 1.0%	1 0.0%	6 0.4%	4 0.2%	81 0.5%
臨時健康診断		11 0.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	11 0.1%
特別定期健康診断		35 0.4%	2 0.1%	211 8.8%	0 0.0%	308 18.7%	556 3.7%
検査	身体計測	145 1.8%	2 0.1%	3 0.1%	7 0.5%	48 2.9%	205 1.4%
	血圧測定	496 6.3%	29 1.7%	112 4.7%	23 1.6%	84 5.1%	744 4.9%
	血液・採血	28 0.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	106 6.4%	134 0.9%
	尿	151 1.9%	94 5.7%	54 2.2%	101 7.2%	129 7.8%	529 3.5%
	視聴力・色覚	10 0.1%	11 0.7%	43 1.8%	6 0.4%	49 3.0%	119 0.8%
	心電図	14 0.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	14 0.1%
処置	外傷	48 0.6%	11 0.7%	44 1.8%	24 1.7%	21 1.3%	148 1.0%
	打撲・捻挫	24 0.3%	5 0.3%	8 0.3%	8 0.6%	5 0.3%	50 0.3%
	熱傷	9 0.1%	1 0.1%	2 0.1%	1 0.1%	6 0.4%	19 0.1%
	咬刺症	7 0.1%	1 0.1%	0 0.0%	12 0.9%	1 0.1%	21 0.1%
	皮膚疾患	11 0.1%	1 0.1%	3 0.1%	1 0.1%	3 0.2%	19 0.1%
	その他	210 2.6%	2 0.1%	7 0.3%	5 0.4%	20 1.2%	244 1.6%
看護	投薬	9 0.1%	3 0.2%	2 0.1%	1 0.1%	3 0.2%	18 0.1%
	健康相談	3,458 43.6%	841 50.7%	995 41.4%	241 17.3%	204 12.4%	5,739 38.2%
	栄養指導	1 0.0%	0 0.0%	2 0.1%	3 0.2%	0 0.0%	6 0.0%
	労働衛生相談	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	健康教室	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.1%	1 0.0%
	カウンセリング補助	186 2.3%	3 0.2%	20 0.8%	23 1.6%	34 2.1%	266 1.8%
	その他	994 12.5%	11 0.7%	67 2.8%	66 4.7%	56 3.4%	1,194 7.9%
カウンセリング	常勤カウンセラー	1,251 15.8%	325 19.6%	793 33.0%	824 59.0%	387 23.5%	3,580 23.8%
	非常勤カウンセラー	129 1.6%	194 11.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	323 2.1%
自主利用	身体計測	38 0.5%	32 1.9%	3 0.1%	1 0.1%	79 4.8%	153 1.0%
	血圧測定	5 0.1%	35 2.1%	1 0.0%	4 0.3%	37 2.2%	82 0.5%
	休養	132 1.7%	27 1.6%	14 0.6%	22 1.6%	19 1.2%	214 1.4%
	その他	3 0.0%	6 0.4%	4 0.2%	0 0.0%	0 0.0%	13 0.1%
健康診断証明書		14 0.2%	1 0.1%	7 0.3%	1 0.1%	28 1.7%	51 0.3%
計		7,932 100.0%	1,660 100.0%	2,403 100.0%	1,396 100.0%	1,650 100.0%	15,041 100.0%

施設利用状況(職員)

* 人数は延人数

業務内容		松本	教育	工学	農学	繊維	合計
医師	内科	20 1.3%	4 4.9%	4 1.2%	6 2.2%	2 0.6%	36 1.4%
	精神科	75 4.9%	2 2.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	77 3.0%
産業医	医療面談	26 1.7%	1 1.2%	0 0.0%	3 1.1%	4 1.2%	34 1.3%
	産業医面談	57 3.7%	6 7.3%	4 1.2%	9 3.3%	3 0.9%	79 3.1%
校医	内科	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	精神科	33 2.1%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.4%	0 0.0%	34 1.3%
	外科	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	整形外科	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	耳鼻科	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	眼科	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	皮膚科	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	婦人科	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
他医への紹介		16 1.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 0.7%	0 0.0%	18 0.7%
臨時健康診断		1 0.1%	0 0.0%	1 0.3%	0 0.0%	0 0.0%	2 0.1%
特別定期健康診断		36 2.3%	1 1.2%	128 39.5%	0 0.0%	77 22.2%	242 9.4%
検査	身体計測	11 0.7%	1 1.2%	2 0.6%	0 0.0%	1 0.3%	15 0.6%
	血圧測定	17 1.1%	1 1.2%	3 0.9%	0 0.0%	2 0.6%	23 0.9%
	血液・採血	28 1.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	11 3.2%	39 1.5%
	尿	5 0.3%	0 0.0%	3 0.9%	0 0.0%	8 2.3%	16 0.6%
	視聴力・色覚	0 0.0%	0 0.0%	2 0.6%	0 0.0%	1 0.3%	3 0.1%
	心電図	1 0.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.0%
処置	外傷	18 1.2%	1 1.2%	1 0.3%	2 0.7%	11 3.2%	33 1.3%
	打撲・捻挫	5 0.3%	1 1.2%	1 0.3%	0 0.0%	1 0.3%	8 0.3%
	熱傷	3 0.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.3%	4 0.2%
	咬刺症	1 0.1%	2 2.4%	1 0.3%	2 0.7%	0 0.0%	6 0.2%
	皮膚疾患	6 0.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 1.2%	10 0.4%
	その他	54 3.5%	0 0.0%	2 0.6%	1 0.4%	5 1.4%	62 2.4%
看護	投薬	25 1.6%	2 2.4%	2 0.6%	2 0.7%	4 1.2%	35 1.4%
	健康相談	341 22.2%	31 37.8%	58 17.9%	87 31.9%	58 16.7%	575 22.5%
	栄養指導	0 0.0%	0 0.0%	1 0.3%	1 0.4%	0 0.0%	2 0.1%
	労働衛生相談	103 6.7%	0 0.0%	1 0.3%	0 0.0%	0 0.0%	104 4.1%
	健康教室	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	カンセック [®] 補助	28 1.8%	0 0.0%	0 0.0%	5 1.8%	0 0.0%	33 1.3%
	その他	478 31.1%	5 6.1%	11 3.4%	145 53.1%	3 0.9%	642 25.1%
カンセック [®]	常勤カウンセラー	7 0.5%	0 0.0%	92 28.4%	4 1.5%	9 2.6%	112 4.4%
	非常勤カウンセラー	22 1.4%	10 12.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	32 1.2%
自主利用	身体計測	1 0.1%	6 7.3%	1 0.3%	2 0.7%	62 17.9%	72 2.8%
	血圧測定	1 0.1%	5 6.1%	2 0.6%	1 0.4%	78 22.5%	87 3.4%
	休養	115 7.5%	1 1.2%	3 0.9%	0 0.0%	2 0.6%	121 4.7%
	その他	1 0.1%	2 2.4%	1 0.3%	0 0.0%	0 0.0%	4 0.2%
健康診断証明書		0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
計		1,535 100.0%	82 100.0%	324 100.0%	273 100.0%	347 100.0%	2,561 100.0%

令和4年5月

編集・発行 信州大学総合健康安全センター

〒390-8621

長野県松本市旭3-1-1

電話 (0263) 37-2157・3516

FAX (0263) 37-3514